ご家庭に
幸せをはこぶ
バラの包装紙

おくりもの に

大洋の商品券

熊本八代両店共通

熊本市下通町1丁目3－10

TEL〈大代表〉2－1111

ハンドボール「第51号目次」

昭和43年3月号

時　評……………………………………（1）
評議員会・理事会開く…………………（2）
女子ナショナル・ベストセブン
　高校優秀選手決定……………………（3）
30周年記念行事開く……………………（4）
第8回全日本実業団選手権……………（8）
海外トピックス…………………………(13)
国内雑信…………………………………(13)
ルール改正について
　　　　審判部長・安藤純光………(14)
日本ハンドボール協会創始期の
　想い出（第3回）………松本良三…(16)
42年度重大ニュース……………………(18)
日本ハンドボール界の課題
　地方協会理事長特集（下）…………(20)
フランスの技術研究（7）……………(22)
球界パトロール…………………………(24)
明日への提言…………田中滋章………(25)
ハンドボールのあゆみ（1）…………(26)
学園だより………………………………(28)
各地の記録………………………………(30)
実連・学連雑信…………………………(32)
編集後記…………………………………(32)

表紙写真　日本協会創立30周年記念行事第1部より（1月28日東京体育館）

時評

日本リーグへ充分な協議と検討を

実業団連盟では、日本リーグ（仮称）の実現をめざして日本リーグ設立準備委員会を設け懸案の日本リーグの具体的な検討に入るとのことで、ハンドボール界にとって朗報というべきであろう。

日本リーグの創設はここ数年来の日本ハンドボール界の懸案であった。それが44年度を目標にすべり出そうとしているのは誠に喜ばしいことである。

諸外国ではすでに長い歴史をもっている国内リーグが行なわれており、トップレベルの向上に大いに役だっている。西ドイツでは従来行なわれていなかったのが、昨年初めて、7人制、11人制の国内リーグが結成され、トップチーム同士の戦が毎週末に行なわれ、大いにファンを熱狂させている。

日本でも、すでにサッカー、バレー、バスケット、アイスホッケーなどで実施されているが、各競技によってその評価はマチマチである。

日本リーグ。その前途には多くの難問が待っているであろう。他競技の日本リーグの成功ぶりを見ての浮わついた気持でなく、かといって他競技の成功を見て焦ることなく、地道に競技の発展を図るのが成功への第一歩であろう。

日本リーグ、これが創立されたならば、またこれが順調にすべりだしたならば、単にトップレベルの向上だけでなく、底辺の拡大にも大いにつながるものになるであろう。

前号と今号に特集した「地方協会理事長の寄稿による日本協会に望む」稿の中でもっとも要望されていたのは、トップレベルの向上と地方球界へ手をさしのべることであった。日本リーグは大都市だけでなく、地方でも行なう予定ときく。日本の各地でトップレベル同士の対戦が見られることになれば、地方球界を刺激し、その発展の基になることは確実であろう。

日本リーグの成否の一つの鍵はすべり出しにあると考えられる。あらゆる要素を検討し、あらゆる階層からの巾広い意見を容れ、充分に他の分野の人との交渉を密にし、日本ハンドボール界全員から歓迎されるスタートをきってほしいものだ。

全国のハンドボール選手の目標は日本リーグの選手になること、全国のハンドボールチームの目標は日本リーグで優勝すること、このような日が一日も早く訪れるように、英断をもってスタートしてほしい。

存分に事前の協議と検討をつくして、すばらしいスタートをきってもらいたいものだ。

全国ハンドボールファン待望の日本リーグが誕生し、その中から多くの選手が世界の檜舞台へ巣立つように！（T S・F）

43年度行事（国際・国内）予算など決定

定例評議員会・理事会開催（2月17・18日　東京）

定例の評議員会・理事会は2月17日に理事会、2月18日に評議員会が日本体育協会において開かれた。

議題は43年度行事（国際・国内）、42年度優秀選手（一般・高校）、43年度女子ナショナルチーム選手、43年度予算、人事問題などが主なものであったが、それぞれ次のように決定した。空席の会長は今年度は選任せず保坂周助副会長が代行することも申しあわされた。

日　程

行事日程では、国内関係はオリンピックの関係で国内の日程がすべて繰りあがるため、ここ数年とはかなり違った内容になっている。国内試合が多いため、整理統合しようとする動きもあるが、今年は一応従来通りとし、関係各方面で検討をしていくことになった。なお今年から国体高校の部は単独でも県選抜の何れでも出場が認められる。

国際関係では、女子世界選手権に出場が決まり男子の予選はどのようになるか未定であるが、もし前回のようにアジア代表ということにならないならば今年末から来年初頭にかけて、二回戦方式の予選を行なわなければならない。

ＩＨＦの総会は、今年はオランダのアムステルダムで開かれることになっている。オリンピック・世界選手権もありこの総会には、代表団をぜひとも出席させることが必要であるとされ、派遣することに決定した。また理事国に立候補することになり、理事には馬場副会長を推すことにした。

代表団は主席代表に馬場副会長、渡辺副会長、荒川理事長の三名で構成することになった。（ＩＨＦ総会についての詳細は下段を参照）

昭和43年度事業日程

【国内関係】

▽男子第11回，女子第４回全日本学生選手権
（７月10日～14日・松山市）

▽第19回全日本高校選手権
（７月29日～８月３日・広島甘日市高）

▽第20回全日本総合選手権
（８月６日～10日・長崎総合グランド）

▽第11回全日本教職員選手権（8月24日～26日・奈良）

▽第17回全日本学生選抜東西対抗
（９月15日・愛知県体育館）

▽第23回国体　（10月１日～６日・福井県高浜町）

▽第21回全日本学生王座決定戦（11月下旬・大阪）

▽第15回全日本選抜選手権（12月18日～22日・東京）

▽第９回全日本実業団選手権
（44年２月９日～13日・横浜）

【国際関係】

▽第４回世界女子７人制選手権出場
（11月16～24日・ソ連）

▽第７回世界男子７人制選手権予選出場
（詳細未定・日時は12月～43年１月の間に２試合）

▽韓国との交流再開（詳細未定）

【その他】

▽国際ハンドボール連盟年次総会出席
（８月29日～31日・オランダ）

人　事

本年はとにかく国際レベルのアップに全精力を注ぐことに主力を置くことが中心にして考えられ、現在のスタッフをそのままにすることに決定した。

組　織

選手強化部を新設し、トップレベルの向上に努めることとし、世界選手権、オリンピックに万全の準備をすることになった。

予　算

予算関係は収入が昨年とさしてかわらないにもかかわらず本年は、女子の第4回女子7人制ハンドボール世界選手権の参加、男子は70年に行なわれる第8回7人制ハンドボール世界選手権の予選に参加しなければならない可能性があることなど今年度と比べると渡航費だけでも莫大な経費が必要となる。それぞれのチームの強化にたいして重点的に費用が支出され最重要とされたのは強化用の費用である。大蔵省ではないが、協会も、年間どうしても必要な経費が予算の半分近くを占めており、事業費にふりむけることができるのは、限られた額であること、この財政の硬直化現象が協会にも及んでいることは、何らかの打開策を早急に考え、充分な強化費が支出できるようになることは当面の重要課題となろう。

機関誌会計は、年間11回の発行とし、今年どおり、年間講読一、二〇〇円に据置くこととした。

ＩＨＦ総会とは……

ＩＨＦ総会は、同連盟の最高決定機関であり、一年置きに開かれている。最近では１９６２年にマドリッド、１９６４年にブダペスト、１９６６年にコペンハーゲンでそれぞれ開かれている。

ハンドボールに関する重要な案件――たとえば、ルール改正、世界選手権の開催、加盟国の決定などの重要な案件、人事もすべてここで決定される。

この他に通常の執行をしている機関が三つあり、これがＩＨＦの運営に当っている。

理事会　会長、副会長、理事長、会計理事、技術委員長と七人の理事によって構成されており、やや重要な案件はここで決定している。たとえば世界選手権の組み合せはここで決定している。日本が理事国に立候補するのは始めて。

常務理事会　会長、副会長、理事長、会計理事、技術委員長と二名の理事からなっており、通常の運営に当っている。

技術委員会　技術委員長と六名の技術委員からなっており、主として競技関係を扱っている。ルール解釈などはすべてここが統一見解をだしており、総会のない年に開かれている**国際審判員講習会**はここが主催し、各国の審判技術の向上に努めている。

世界選手権（女子）代表決まる

四冠王・田村紡から7人選出

世界の上位突入が期待される第4回世界女子7人制選手権（11月・ソビエトのレニングラードほかで開催）に出場の日本代表が決まった。2月18日の評議員会で承認されたもので全日本女子が世界選手権に参加するのは37年（第2回）、40年（第3回）につづいて3度目のことである。

なお代表チームは3月中旬四日市市で第1回合宿を行う予定。

発表されたメンバーは、今年度国内女子界の全国タイトルを独占した田村紡（三重）のレギュラー7名をはじめ大崎電気、大洋デパートから各3名、三菱鉛筆から1名と実業団のトッププレイヤー14名で、これまでにない最強の布陣として、早くも本大会での活躍が期待されている。

日本協会が、世界選手権など海外遠征のメンバーを、これほど早い時期に決定し、発表したのは初めてのことで、これはオリンピック実施を前に、世界選手権で上位入賞の実績を得るため、周到な準備と強化をはかる狙いがあるにほかならない。

団長、監督、コーチ陣は評議員会の席上で選ばれたが、選手の構成とのつながりに重点が置かれた。

第4回世界女子7人制選手権 全日本女子選手団

▽役員

役職	氏名	所属
団長	田村　正衛	（三重県会長 田村紡社長）
監督	小袋　是郎	（福岡県副会長 日本協会審判部）
コーチ	鈴木　義男	（田村紡監督）
コーチ・マネージャー	井　薫	（大洋デパート監督）

▽選手

	氏名	所属	年令
GK	渡辺美智子	田村紡	21才
	小原　名苗	大洋デパート	19才
FP	種村　好子	田村紡	21才
	小林　五子	田村紡	22才
	水谷　秀子	田村紡	21才
	渡辺　好子	田村紡	21才
	清水　一子	田村紡	21才
	加藤　井子	大崎電気	21才
	早川　清美	大崎電気	23才
	鈴木　功子	大崎電気	23才
	新保　郁子	大洋デパート	23才
	垂水　秀代	大洋デパート	20才
	蓮見二三恵	三菱鉛筆	20才

チーム平均身長 157.4cm。平均年令 21.2才

選衡経過

ミュンヘンオリンピックに女子が実施される場合を考りょ、今大会で実績をつくることが必要であるという観点から、現時点の最強メンバー14人（GK2、FP12）を選ぶこととし選衡に入った。

候補としてリスト・アップされたのは実業団、学生、高校各分野から、あわせて50名をこえたが国内諸大会の実績から見ても実業団選手が中心となることに意見の一致をみた。その結果GK2名と主戦となるべきFP8名あたりまでは、比較的スムースに決定されたが、残る4名のワクをめぐって、かなり難行した。特に、高校界・学生界の有力選手を加えるかどうかは、長い論議となったが結局、基本方針の〝現時点の最強布陣〟ということと、高校界の逸材といってもこれを上廻る既成選手がいるということで今回は見送りになった。

決定されたメンバーは、四冠王田村紡のレギュラーがそっくり選ばれたほか、前回（昭40・西ドイツ）の代表早川、鈴木、加藤（以上大崎電気）、新保（大洋デパート）から4人の連続出場組と進境いちじるしい垂水（大洋デパート）蓮見（三菱鉛筆）の若手アタッカー。

GKとして、ただ一人10代の小原（大洋デパート）が加えられた。

42年度ベストセブン決定

日本協会は42年度男女最優秀選手（ベスト・7）を次のように決め発表した。

これは、これまでの「年度優秀選手」に代わるもの。

一般最優秀選手は男子については、学生界、教員界、実業団界から、女子については、学生界、実業団界からそれぞれ一人ずつの選考委員を出し、それに審判、普及各部から一名、それに技術部から四名の委員によって選考された。

まず選考は学生界、一般界とそれぞれのベスト・セブンを選び、それを対照して、このベストセブンが選ばれた。

男子では学生界の選手は今一歩のキャリアが欲しいと云うことで、見送られた選手が多かった。

女子は田村紡績、大崎電気、大洋デパートの主力選手が顔を揃えている。

最優秀選手

<男子>

	氏名	所属
GK	福本　弘	大崎電気
FP	木野　実	立教大
	近藤　信行	大崎電気
	近森　克彦	芝浦工大
	竹野　奉昭	大崎電気
	江名　英彦	立教大
	北井　晴次	埼玉教員

<女子>

	氏名	所属
GK	渡辺美智子	田村紡績
FP	種村　好子	田村紡績
	小林　五子	田村紡績
	早川　清美	大崎電気
	鈴木　功子	大崎電気
	新保　郁子	大洋デパート
	垂水　秀代	大洋デパート

高校優秀選手も決まる

全国高体連ハンドボール部は昭和42年度全日本高校優秀選手男女それぞれ15人を次の通り選び発表した。

（男子）

	氏名	学校
GK	原田　健	明星
	沖野　秀治	広
FP	大江　隆夫	岩国工
	大島　祥道	広
	渡辺　巧二	広
	新実　俊夫	桜台
	佐藤　要二	清水市立商
	大野　昭治	氷見
	荒井　正人	明星
	氷海　正行	明星
	高梨　豊	明星
	内藤　正美	明星
	佐々木健一	明星
	佐々木　吏	湯沢
	岩村　道夫	中大附属

（女子）

	氏名	学校
GK	坂野　カヨ	花巻南
	河村　鈴子	室蘭
FP	姫野　道子	大分東
	山隅るみ子	菊池農
	山本美千代	新居浜市商
	池田　洋子	山陽女子
	北川　英子	大垣南
	朝倉　敏江	名古屋女子
	日向野みち子	栃木女子
	庄子　信子	谷
	牧野　涼子	秋田和洋女
	三浦　朝子	花巻南
	川井　律子	花巻南
	姫野八重子	室蘭商
	真田　恵子	室蘭商

限りなき前進の誓いも新たに

～1月28日・東京体育館～

日本ハンドボール協会創立30周年記念行事開く

日本ハンドボール協会の創立30周年を祝う記念行事は1月28日午後0時30分から東京千駄ケ谷の東京体育館で盛大に開かれた。

記念行事は2部に分けられ、まず第1部では昭和13年協会創立以来ハンドボール界の発展に寄与されたかたがた、貢献のあつた団体へ表彰状、感謝状が贈呈された。

午後1時からの第2部は記念試合として全日本社会人――全日本学生選抜対抗戦男女2試合が行われ、国内を代表するトッププレイヤーが内容豊かなプレーを応しゅう、スタンドを埋めた約三千の観衆を湧かせた。

ひきつづき午後5時から、会場を東京赤坂プリンスホテルに移して、創立記念祝賀会が来賓多数を迎えて開かれ、午後7時すぎ、すべての記念行事をつつがなく終えた。

30年の尽力を讃えて……

百三十三名・十三団体を表彰

第1部 功労者表彰式

記念行事は午後0時30分、メイン・コート中央で、功労者の表彰式からはじめられた。

功労者として表彰を受けたのは、これまで、斯界発展に側面から支援、助言をうけたかたがた（感謝状の贈呈）と日本協会、地方協会、加盟各団体から『各都道府県協会、全日本実業団連盟、全日本学生連盟、全国高体連の役員で、継続して満20年以上で尽力のあった人』『各団体、組織創立以来15年以上役員をつとめ、現在も役員として多大の功績のあった人』『各団体、組織創立以来役員として多大の功績があり、すでに他界された人』という推せん基準要領にのっとって推挙されたかたがた（表彰状の贈呈）で、会長代行保坂周助氏の挨拶にひきつづきまず感謝状を贈られるかたがたが次々に紹介され、河島武四郎氏（日本協会参与、元高体連ハンドボール部長）が代表して表彰をうけた。

つづいて、表彰状を贈られるかたがたが紹介された。全国各地方からこの日のために上京された功労者に対してスタンドから大きな拍手がおくられるなかで村山寛氏（日本協会評議員、岡山協会会長）が代表して賞状をうけた。

表彰者されたかたがたは次の通りである。（敬称略）

感謝状贈呈者名簿　個人9名　団体13社

▼日本ハンドボール協会関係　高橋竜太郎（故人）、中山正善（故人）大谷武一（故人）、栗本義彦、川崎秀二、浅野均一、米本卯吉、河島武四郎、塩沢幹、内藤誉三郎＝以上各氏は日本協会顧問　松本良三常松喬、岩野次郎、森松雄、浜田義明、池上金治、外山准二、阿部二郎、植村肇＝以上各氏は日本協会参与

▼報道関係　朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、サンケイ新聞社、共同通信社、時事通信社、日刊スポーツ新聞社、日本放送協会（NHK）

▼ボール業者関係　モルテンゴム工業株式会社（増田秀雄）、明星ゴム工業株式会社（森為利）、ミカド商会（仲田国市）、タチカラ株式会社（飯室至）、望月運動用品株式会社（望月菊造）、

注・（　）内は代表取締役社長名

表彰状贈呈者名簿　114名

▼日本協会推せん　的場益雄（東京現常務理事）若崎重富（神奈川・現常務理事）徳永陸繁（高体連・現常務理事）荒川清美（学連・現理事長）

▼高体連推せん　菅是敬

▼学連推せん　木下彰、橋森禎二（東北・北海道学連）宇津野年一藤松博（東海学連）加藤秀三郎（関西学連）安田正二（中・四国学連）

▼地方協会推せん　小坂幸一、万代秀三郎（北海道）菊池慶一郎、箱崎敬吉（岩手）福島富造（宮城）柳沼正義、熊田栄一、岡部新一郎、佐藤精一（福島）町田歳雄、高橋潔（群馬）、細井操（栃木）、大川潤、磯部浩、菊地陽三（故人）、入江暢一（茨城）、井田万三郎（埼玉）、保坂周助、三浦公、渡辺義一（神奈川）、右屋正、米山泉、清水正（山梨）、片瀬喜代次、平岩魁、高田憲一（静岡）、栗脇凝、鬼頭嘉久、河合源三郎、幸村稔、稲石三二、山田仁止、伊藤和夫、林圭介、牧民（愛知）、日沖修（故人、三重）油井孝一郎（長野）、西尾他嘉志、天野耕兵衛、木下喜平、宮川栄一（石川）、嶋田新太郎、島田重春（富山）、森

田正英、村井繁昌（故人）（奈良）野田聖太郎、岩西宏純（和歌山）、馬場太郎、村田弘、藤田信明、山田稔、山田計、岡本克彰（大阪）、工藤健次郎、広井敬、尾本和男、北川裕之、石原了賢（滋賀）、玉城修、金子祥助（故人）、入江平三（京都）村山寛、安田正二（中四国学連推せんと重複）、猪原昭、永山先一（故人）、永井正、辻一義、笹井卓、坂手卓資（岡山）、藤田信義、青木操、荒瀬一生、光永教之、野村正、室谷六郎、星井直、富樫栄、柳井文治、槇敏夫（山口）、山西寛、植松勇、辻要、山地利雄（香川）、越智武、高橋満年、藤田照明、河本武夫、山崎幸夫（愛媛）、鶴岡久雄（高知）小袋是郎、荒木英之、中園進（故人）、瀬尾秀己、岡井幸由、中西敬一、日野博、今村幸一、野村良水（福岡）、疋田忠、角田保範、財前久範（大分）、北川浩、井上元二、藤田八郎（熊本）。

男子引き分けに終わる

女子は社会人が学生を圧倒

第2部 記念試合

祝賀記念行事の第2部は記念試合として全日本社会人選抜対全日本学生選抜の対抗戦男女2試合が午後1時から行われた。出場選手はいずれも昨冬の第14回全日本選手権の参加チームのなかからピックアップされた第一線プレイヤーで、こうした編成による対抗試合は、斯界でも初めてのこと。30年の祝賀にあわせて好プレーを期待するファン約三千がスタンドを埋めた。**第1試合の女子対抗戦**は午後1時10分から主審・岡前義春（日体大出）、副審・渡辺慶寿（日体大出）近藤金博（芝浦工大出）で開始。

全日本社会人選抜 20（8－4, 12－1）5 全日本学生選抜

得	【学生選抜】		【社会人選抜】	得
0	明神（日体大）	GK	渡辺美（田村紡）	0
0	小野里（日体大）	GK	吉田（三菱鉛筆）	0
2	北口（日体大）	FP	種村（田村紡）	2
0	川口（日体大）	FP	水谷（田村紡）	1
0	原（日体大）	FP	小林（田村紡）	3
1	立林（日体大）	FP	清水（田村紡）	5
2	熊谷（東女体大）	FP	早川（大崎電気）	4
0	浅見（東女体大）	FP	鈴木（大崎電気）	4
0	綱川（日体大）	FP	蓮見（三菱鉛筆）	0
0	中村（日体大）	FP	加藤（大崎電気）	1
0	津熊（日体大）	FP	三井田（三菱鉛筆）	0
5	（1）	7MT	（2）	20

観戦記

立ちあがり学生はよく攻めた。5分間に5本のシュート。なかなか積極的だ。

しかしシュートに的確さがなく得点に結びつかない。押されながらも社会人はキャリア充分。4分50秒、こぼれ球を拾った鈴木が一気に持ちこんで先制、10分には4－0と開いた。チャンスの数は学生の方が多かったが、このあたりスピードの差がはっきり出た。

学生はそのあと北口の連続ゴールで15分には2－5として勝負の興味をつないだが、社会人も水谷、清水、種村の田村紡トリオがそれぞれの持ち味を活かした得点で8点をあげ、つきはなした。

後半に入って学生の捨て身の反撃が期待されたが、4分エースの北口が左足首負傷で退場、こうなるともういけない。あとは社会人のなすがままだ。

試合前から両者の実力差ははっきりしていたのだが、このところ実業団打倒へ意欲を示す学生勢がどこまで迫るか、一応の興味だった。それが前半のチャンスを活かせず、後半に大黒柱を失ってしまったとあってはこの完敗もしかたがない。（杉山 茂・NHK運動部）

主審の目

学生はディフェンスの動きすぎでノーマークを相手にやすやすと許していた。一方、社会人は個人技をうまく合わせてポイントをあげ楽勝だった。学生の堅さが見られるプレーは残念である（岡前義春）

第2試合の男子対抗戦は午後2時17分から主審・佐野和夫（東京教大出）、副審・大塚文雄（東京教大出）、藤原侑（日体大出）で開始。

全日本社会人選抜 19（9－8, 10－11）19 全日本学生選抜
引き分け

得	【学生選抜】		【社会人選抜】	得
0	山村（芝浦工大）	GK	福本（大崎電気）	0
0	上野（東京教大）	GK	島崎（大阪イーグルス）	0
5	山田（芝浦工大）	FP	竹野（大崎電気）	4
0	近森（芝浦工大）	FP	近藤（大崎電気）	3
4	木野（立教）	FP	北村（大崎電気）	1
3	北村（立教）	FP	安達（全神奈川）	2
3	野田（立教）	FP	江名（全立教）	4
0	平岡（東京教大）	FP	北井（埼玉教員）	2
1	東（立教）	FP	池田（全神奈川）	0
0	秦（芝浦工大）	FP	石樽（岐阜教員）	0
3	川島（東京教大）	FP	東（大阪イーグルス）	3
19	（0）	7MT	（0）	19

観戦記

ともに現代の国内ハンドボール界を背負って立つ代表的なプレイヤーによって展開された一戦であったが、「選抜」というチーム形式によくあるにわかづくりであるがためのコンビネーションの悪さが随所にあらわれたことは、やむを得ないこととは云え、残念であった。特に学生側は試験期でもあり練習不足が目立った。また社会人の場合は実業団選手権大会を前にそれぞれのチームで練習をしているものの、選抜チームとしての練習は、やはり不充分であった。このためとくにベテランを集めた社会人チームは、ゲームが進むにつれて個人プレイがめだち、チームとしての連けいがうすれてきた。

さて、ゲームは北村、江名、竹野とつづいて得点し、社会人のリードによって展開した。学生チームは、大観衆を前に多少あがりぎみで動きがにぶくミスも目立ったその間に社会人は、おくするところなくベテランぶりを発揮して着々と得点を重ね18分を過ぎて7点をあげた。これに対して学生は10分に野田、13分に山田が得意のサイドからみごとにきめた2点だ

け、7—2と社会人に大きく水をあけられた。しかし学生は、時間の経過とともにかたさもとれ、北村のカットからの速攻、巨砲木野が相次いで得点し前半を終って9—8と一点差に追いあげた。

前にもふれたが、前半の中半を過ぎるころから社会人チームは、個人プレイを主体とした攻撃が多くなった。これに対して学生チームは、お互の遠慮からプレイをためらう場面も見られた。それぞれ高度な技術のもち主の集まりであり、しかも練習不充分なチームワークを期待する方が無理であったろう。

後半に入って2分近藤の得点で社会人は再び優位にたってゲームを展開した。しかし7分木野が島崎のミスボールを得て得点、9分山田がサイドからゴールして同点、つづいて川島が得点して形勢を逆転、ゲームは学生のリードに対して社会人が追いかける立場にたった。中半を過ぎるころから同点になっては学生がリード、二度三度同点になっては、学生のリードが繰りかえされた。28分木野のシュートで学生がリードし、ゲームは学生の勝利に終るかと思われたが、すかさず近藤が得点し、おしくも同点引きわけでゲームを終った。

この間に島崎、上野の両GKの好守備もあり、それぞれもち味を生かして、ゲーム内容には多少の難はあったが、ヤマ場あり、ユーモア（？）あり会場の雰囲気を盛りあげ創立30周年記念を飾るにふさわしいゲームであった（安藤純光・日本協会審判部長）

主審の目

社会人・学生ともに全日本クラスの実力を持った優秀な選手であったが、練習不足（このチーム、このコンビでの……）で呼吸が合わずモタつき気味の試合運びだった。

わずかに実業団を主力の社会人が巧い試合運びからリード。学生は長身者をとえながら前半ロングシュートが射てず苦戦したが、両サイドがよく決めて応戦。後半学生は、木野（立教）を中心によくまとまり、シーソ、ゲームを見せて最後まで楽しめる試合展開だった。（**佐野和夫**）

懐旧と発展の期待をこめて

笑顔にのぞく五輪への決意

第3部 創立祝賀記念会

午後5時から東京・赤坂プリンスホテル「グリーン・ホール」に創立功労者をはじめ体協、文部省教育委員会、報道、地方協会関係者など約百五十名と記念試合に出場した男女役員・選手五十名が出席して開かれた。

会は、浜田猪三郎常務理事の司会で進められ、まず会長代行保坂周助氏が『創立30周年を機会に、更に一そうの努力と情熱をもって前進したい』と挨拶、つづいて岡山協会長・村山寛氏が祝辞を述べ、日本協会副会長馬場太郎氏の力強い発声で乾杯が行われた。

さらに文部省体育官石橋武彦氏球界の先輩大川潤氏からあいついで祝辞がおくられた。

このあと鳥取協会など各方面から寄せられた祝電が披露され、司会者の指名で、記念試合の出場選手のなかからチーム別に代表(?)が得意のノドを聞かせるという和やかな進行となった。

余興が一だんらくしたところへ来賓としてかけつけられた日本体育協会理事近藤天氏（日本体操協会副会長、体協競技力向上委員長）が『久々にオリンピック種目として採用される一九七二年のミュンヘン大会をめざし、日本ハンドボール協会の努力を期待したい』と挨拶、盛んな拍手をあびた。

参会者のほとんどは、第二次大戦前から日本ハンドボール界の発展一筋に情熱をかけられたかたがたで、そこここで懐旧談に花が咲き、感がい一しおという表情。

若い現役選手をつかまえて「ミュンヘンは頼んだぞ」と激励する風景もみられ、球界の先輩たちの顔からは30年の苦労のあとと、未来への高遠な希望に夢を託す明るさが感じとれ、いならぶ協会現役員や選手たちも改めてオリンピックへ、世界への決意を新たにしたようだった。

午後7時すぎ、日本協会を代表して理事長荒川清美氏が謝辞とともに『今後は誇りあるハンドボール界とするためたゆまぬ努力をつづけたい』と抱負を述べ、第4代会長鈴木達雄氏の発声で「日本ハンドボール協会万才」を全員が高らかに三唱、散会した。

田村紡（三重）四冠王の偉業成る

～全日本実業団選手権終わる～

男子は大崎電気（埼玉）が8連勝

田村紡の四冠王が成った!!第8回全日本実業団選手権は、女子が2月7日から11日まで熊本市体育館で、男子は2月10日から14日まで大阪市立中央体育館で行われた。国内最強5チームのリーグ戦で争われた女子は、今シーズンすでに全日本総合、国体、全日本選抜の3大タイトルを掌中にしている田村紡（三重）が、安定した試合ぶりで全勝、昭和36年度の愛知紡（愛知）についで史上2度目の〝四冠王〟の快挙を成しとげた。

36チームを集めた男子は、2年連続して大崎電気（埼玉）――住友化学菊本（愛媛）の優勝争いとなり、大崎が地力を発揮し第1回以来8年連続優勝、この大会で35戦無敗の記録をマークした。なお、来年の第9回大会は44年2月9日から5日間横浜市で開かれる。

女子リーグ

大崎電気（埼玉）14（5－4, 9－4）8 愛知紡績（愛知）

両チーム共緒戦という緊張感と寒さのため動きのわりに凡ミスが多かったが後半調子の出た大崎は速攻で立て続けに得点し試合を有利に運んだ。

一方愛知は大崎の早いアタックで動きを止められ単発的にロングで応戦したが大崎の脚力を利した早い動きに守備を切断され脚力の差が得点に表われた。（主審 岡井幸由）

田村紡（三重）7（3－2, 4－1）3 三菱鉛筆（神奈川）

前半、三菱は早い帰陣と固いディフェンスで、田村紡の持味であるスピードとリズムにのった攻撃を許さず、一方田村も三菱の三井田、蓮見にシュートチャンスをあたえず、得点こそ少なかったが、内容のあるゲームを展開した。後半なかば三菱のパスのみだれと、単調なシュートから、田村得意の速攻が連続し、勝敗を決めた。

得点差こそあったが、技術的には大差なく、ただチャンスの生かし方には未だ大きな差があった。それにしても三菱は田村をよく研究し、攻撃、防禦を行っていたと思う。

三菱GK吉田が7米スロー3本を全部とめたのが印象的であった。（主審 荒木時弥）

大洋デパート（熊本）7（4－2, 3－4）6 大崎電気

大崎は立ちあがり2点を先取し好調かに思われたが以後大洋の堅い守備に容易に得点出来ず前半を終了、一方大洋は斗志で逆転した。

後半2点を追いつ離しつつの好ゲームを展開し終了間近く大崎は同点に追いつき引分けかと思われたが大洋はゆさぶりから強引と思われる2番新保から枝尾へのパスが成功し勝利をものにした。最後迄観衆を楽しませた好試合であった（主審 岡井）

三菱鉛筆 15（7－5, 8－3）8 愛知紡績

三菱鉛筆は三井田の好リードでスピードのある攻撃を展開しむらなく得点した。三井田のシュートチャンスのいかし方は光っていた。体力に優り五十分走りとおしたことも勝因だろう。一方愛知紡績は個人技（フェイント、ドリブル）にたよりすぎたため攻撃が浅くなり自らチャンスをつぶしていた。ボールをキャッチする前の動きがたりないことも大きな敗因だ。体力を高めると共に二十五分に対する研究を望みたい。（主審 森豊夫）

大洋デパート 17（10－3, 7－3）6 三菱鉛筆

地元大洋は立ち上りポストを利用した早いパスと動きで立て続けに4点をあげ好調にすべり出し10－3で前半終了、試合を有利に進め後半も相手三菱の食いさがりを防ぎ楽勝した。一方三菱は型にはまった攻撃を繰り返しそのため無理な体勢からのシュートを大洋守備陣に合わされ動きも堅さが目立った。（主審 岡井）

田村紡績 17（10－4, 7－4）8 愛知紡績

愛知紡は田村紡の早い動きとパスの攻撃をよく研究し積極的なカットに出て防禦していた。又攻撃においてもよくシュートチャンスを作っていたが、最後のシュートに力がなくGK渡辺に好捕され逆に速攻をゆるしてしまった。愛知紡は今までになくよい試合をしていたがシュートに確実さが足りなかった。二十五分ゲームで田村紡のスタートのよい速攻に帰れなかったのも敗因で点差は開いたが好ゲームであった。（主審 島

チーム・対戦別 個人記録

【田村紡】	三	愛	洋	崎
K 渡辺美	0	0	0	0
坂上	0	0	0	0
F 種村	1	1	3	2
渡辺好	3	2	2	1
水谷	2	2	0	2
小林	1	4	3	3
清水	0	2	0	1
長谷川	0	3	1	2
甲村	0	2	0	0
吉開	0	0	0	0
渡辺信	0	1	0	0
計	7	17	9	11

【大洋デ】	崎	三	田	愛
K 小原	0	0	0	0
安部	0	0	0	0
F 新保	2	3	3	2
垂水	2	5	1	6
渡辺	0	4	1	4
射場	1	2	0	4
今村	1	1	1	1
枝尾	1	2	2	3
三宅	0	0	0	0
米	0	0	0	1
島田	0	0	0	0
計	7	17	8	21

【大崎電】	愛	洋	三	田
K 川崎	0	0	0	0
山田	0	0	0	0
F 加藤	3	2	3	2
早川	3	1	0	1
鈴木	5	0	2	0
小林	1	1	0	2
栗林	0	0	0	0
木幡	2	2	0	2
山崎	0	0	1	1
神藤	1	0	0	0
久保田	0	0	0	0
計	14	6	6	8

【三菱鉛】	田	愛	洋	崎
K 吉田	0	0	0	0
本荘	0	0	0	0
F 三井田	0	1	1	0
鈴木	2	1	1	1
佐々木房	0	0	0	1
落合	0	3	0	0
佐々木洋	0	3	1	0
江川	0	4	2	1
遠藤	0	0	0	0
蓮見	0	0	0	0
阿部	1	3	1	2
計	3	15	6	5

【愛知紡】	崎	三	田	洋
K 尾崎	0	0	0	0
F 小林	4	4	3	3
前田	0	1	0	0
五十嵐	3	1	1	0
小野	0	0	1	0
関口	0	1	3	2
黒木	1	1	0	1
藤池	0	0	0	0
近藤	0	0	0	0
計	8	8	8	6

（注） KはGK FはFP

田秀四）

大崎電気 6（3—5 3—0）5 三菱鉛筆

前半好調なすべり出しの大崎電気も10分後からロングにたよる単調な攻めで善戦の三菱に5—3とリードをうばわれた。

後半にはいっては、両チームとも単調な攻防をくりかえし僅かにゲーム運びと基本技に一日の長がある大崎電気が3—0と押え三菱を振り切った。

大崎は縦へのするどい切り込みの習得、三菱はシュートの甘さ特にロングを解消する努力を期待したい（主審 井上元二）

田村紡績 9（5—5 4—3）8 大洋デパート

大洋は地元の利で前半田村の早い動きに対し互角に戦いシーソーゲームを展開したが後半体力と自信ある田村のプレーに圧せられたが後半終了近く1点差まで食いさがったが七米スローの失敗が戦局に大きく響いた。

一方田村は全員むらのないコンビネーションにより最後迄スピードのある動きで大洋を寄せつけず自己のペースに大洋を引き入れた事が勝利をものにしたと云える（主審 岡井）

大洋デパート 21（13—3 8—3）6 愛知紡績

大洋は新保、垂水の得点を機に速攻やロングシュート等持てる力を充分発揮し前半で勝負をつけてしまった。一方愛知紡績は二十五分ゲームでのリーグ戦で一番つらい思いをしたように見うけられ、攻撃に鋭どさがなく、守備においてもやすやすとロングシュートを打たれ又速攻をもゆるしていた。シュートチャンスは多くありながら得点出来ず今後は体力の面での体得することが必要ではないだろうか。（主審 島田）

田村紡績 11（7—5 4—3）8 大崎電気

双方ともに知りつくした仲で、非常にスピーディなゲーム攻防を展開した。

大崎電気は本来の特色であった速攻を数多くパス、キャッチのミスでをつぶしたことは勝敗の岐路ともなったが最後までよく善戦した。

田村は持ち前のスピードあるパスワークでオープンに攻め着実に加点して終始ゲームをリードしたが時間一杯スピードのおとろえを見せぬ体力と巧妙なボディコントロールは大きく賞すべきものと思う（主審 井上）

順位 ①田村紡績4勝、②位 大洋デパート3勝1敗、③位 大崎電気2勝2敗、④位 三菱鉛筆1勝3敗、⑤位 愛知紡績4敗

総評・井上元二

従来、男子の目覚ましい技術の向上のかげで、ややもすれば低調のうらみがあった女子ハンドボール界も、連日の熱戦を目のあたりにして、優にその危惧を払拭させるに充分な内容があったと感じたのは、私一人ではなかったと思います。

ハンドボール競技本来のスピード、ボール競技本来のスピーディーなゲーム運び、たまたま室内という好コンディション下とはいえ、高度な技術の展開は、今後の国際的な活躍に多大の期待を寄せるに足るものがあると確信します。そのかげの関係各位の熱意と特に各チームの若い監督諸氏の日頃たゆまぬ研究努力に大きな讃辞を送りたい。

本大会が僅か5チームの参加にもかかわらず、異常な盛り上がりのある内容に終始したことは、本年度世界選手権大会参加の朗報が参加全選手の意欲をかりたてたことが大きな支えになったと思われます。

今大会からはじめての25分ハーフの適用であったが、全試合とも時間一杯いささかのおとろえも見せず、巧みなボディコントロールを利してのスピーディーなゲーム運びに終始し、チームゲームに徹して、本年度全タイトル獲得の偉業を成し遂げた田村紡績チームを大きくたたえたい。

田村紡績チームにくらべて、体力にしろ、スピードにしろ、またシュート力にしても何等の遜色もない他チームにとっては、今後50分をフルにスピードをもって活動できる持久性と、折角のスピードを確実にチャンスに結びつけるためのボディコントロール、およびゲームのながれを適確に判断処理できるブレインコントロールの習得が急務と思われる。

本大会における大きな収獲を礎として、今秋の世界選手権大会での飛躍を心からお祈りしたい。

最後に、かかるすばらしい内容をもった大会が、地方において開催され、熊本県スポーツ界におけるハンドボールの普及の面に多大の成果を収めたことに深く感謝いたします。（大会副審判長）

住友化学、2年連続決勝で敗退
新進のレベルアップ目立つ

男子トーナメント

▽1回戦（4試合）

日本鋼管川崎（神奈川） 25（14—10 11—9）19 武田薬品光（山口）
京都信用金庫 25（10—9 15—7）16 安田生命（東京）
丸善石油（和歌山） 25（9—6 16—3）9 小松製作所（石川）
富士製鉄名古屋（愛知） 20（9—2 11—9）11 日進商会（神奈川）

○……京都×安田戦はもつれた。前半10分3—3から連続5点を奪った安田がそのまま試合のペースを握るかに見えたが、京都は激しく追いこんで29分に逆転、後半開始直後再び安田にリードされたが福井、GK南の活躍で主導権を奪いかえし押し切った。

新鋭同士の富士製鉄—日進商会は、富士鉄が前半杉浦を中心にチャンスをうまく活かして優位に立ち、日進の反撃をかわした。

▽2回戦

三菱油化（三重） 32（14—10 18—11）21 金沢市役所（石川）
神戸製鉄（兵庫） 17（11—7 6—8）14 日新製鋼呉（広島）
大同製鋼（愛知） 29（23—6 6—9）15 日東電気（大阪）
富士レジン（兵庫） 41（22—5 19—8）13 和同建設（神奈川）
大阪ガス（大阪） 22（13—5 9—13）18 自衛隊勝田（茨城）
三菱レイヨン大竹（広島） 29（14—4 15—3）7 タヨン産業（愛知）

＝以上第1日（10日）

常盤工業（岐阜） 38（19—3 19—7）10 丸善石油
三景（東京） 30（16—5 14—5）10 三井石油化学（山口）
大崎電気（埼玉） 27（16—6 11—5）11 日本鋼管川崎

日本鋼管福山（広島）	35	21–8, 14–4	12	岩手医大教職員（岩手）
住友化学菊本（愛媛）	21	14–8, 7–12	20	富士製鉄名古屋
本田技研（三重）	21	2–1, 1–1 … 13–12, 5–6	20	千代田印刷機製造（東京）
川崎車輛（兵庫）	33	16–8, 17–0	8	日立マクセル（大阪）
日本原子力研究所（茨城）	31	20–10, 11–3	13	美津濃（大阪）
宗形製作所（大阪）	34	20–6, 14–4	10	京都信用金庫
北陸電力（福井）		不戦勝		日野自動車（静岡）

＝以上第2日（11日）

○……10日の6試合では大阪ガス—自衛隊勝田が、後半にみせた勝田の追いあげで白熱した。しかし大阪は、前半、恵美のミドルシュートを武器にかせいだ8点差で、追われながらも余裕があり逃げ切った。

神戸製鋼—日新製鋼は劣勢の日新が後半7分11—11に追いつきがぜん盛りあがった。そのあとは一進一退。14—14から神戸は23分為近、24分梅田のゲットで勝ちこし、日新の反撃を25分若宮の1点におさえて辛勝した。。力は伯仲していたが神戸はつねに先手をとっていただけ有利だった。

このほか勝者のなかでは、めっきり力をつけた三菱油化の試合ぶりが目立った。

○……11日はシードチームが出場、迫力のある試合が見られた。番狂せかとスタンドを湧かせたのは住友化学—富士製鉄だ。

優秀新人をいっきょに加えた富士鉄は、前半10分をすぎる頃から高橋、黒岩らを中心とした持ち前の攻撃力を存分にふるいはじめ住化を圧倒、後半にも、その勢いを持ちこんで20分19—14とリードした。老れんな住化もこうなるとかなり苦しいのではないかとみられたが、それまで好調の富士鉄の攻撃がここでピタリと止まってしまった。1点づつ大事に返していく住化は28分加藤のゲットで20—20とタイ。29分30秒長峯の劇的な逆転ゴールで勝ちを握った。

八分通り勝った試合をおとした富士鉄にはあきらめ切れぬ一戦だろうが、若さにあふれた攻守は来シーズンの成長が楽しみである。

本田技研—千代田印刷機製造は両者とも、一時よりスケールが小さくなった。後半9分9—9から本田は連続5点を奪って絶対の優位に立ったのだが、それをキープするだけの力がなくなっている。千代田は青木、近藤の攻撃で29分18—17、逆転勝ちしたかにみえたが、29分40秒本田・大下の巧技に同点とされ、延長では本田が先手をとって乱戦にケリをつけた。

このほかの試合は一方的な経過で終ったが、前半17—0という大差をつけた川崎車輛の攻撃力と、一人で13点をたたき出した常盤工業・高橋の突進力が注目された。

常盤工業、三景に敗れる

▽3回戦

大崎電気	35	21–4, 14–8	12	三菱油化
神戸製鋼	19	8–5, 11–10	15	大同製鋼
富士レジン	37	22–8, 15–8	16	大阪ガス
宗形製作所	17	9–6, 8–5	11	三菱レイヨン大竹
三景	20	10–7, 10–6	13	常盤工業
川崎車輛	22	9–8, 13–10	18	北陸電力
日本鋼管福山	26	14–3, 12–10	13	日本原子力研究所
住友化学菊本		棄権		本田技研

○……前回3位の常盤工業が初出場の三景に敗れる波乱があったほか、各試合ともチームの持ち味をいかしあって好試合がつづいたのは実業団球界のために喜んでいい。三景—常盤は、三景のセットプレーに常盤のディフェンスがくずされ、常盤は、後半になって11—13までつめたが、そのあと、再び三景尾形—江名のコンビにゴールを奪われ敗れた。

ダークホース同士宗形製作所—三菱レイヨン大竹は、すべり出し乱調の宗形が、次第に立ちなおりうまくリードを保って制勝した。三菱もベテラン沖重と兼森のシュート力で善戦したが、宗形の調子の整わぬスキをつくだけのスピードが不足した。

神戸—大同、川崎—北電、鋼管福山—原研の3試合は互角の実力で、それなりにまとまりのある試合展開を示したが、後半10分あたりからの攻防両面での動きが、勝負を色分けすることにつながった。試合の流れのとらえかたとスタミナ配分の巧拙が現れたとみてよいだろう。

敗者では福井国体を控えた北陸電力に伸びが感じられた。個人では富士・狩山の14得点したプレーが光った。

富士レジン、ベスト4へ

▽準々決勝

大崎電気 41（21–4, 20–3）7 神戸製鋼

【神戸】		得
GK	田中	0
	石井	0
FP	友広	0
	大田	0
	梅田	2
	為近	1
	木村	0
	石田	0
	沖津	4
	福島	0
	羽有	0

【大崎】		得
GK	福本	0
	下里	0
FP	北村	1
	金田	4
	井上	5
	近藤	9
	西村	6
	竹野	4
	片山	3
	加藤	9

（主審 赤松）

41（1）7MT（0）7

○……優勝候補・大崎を意識してか神戸は前日までのような動きがなくパスミスとエリア周辺での平行パスが目立ち、巧者大崎はそれをすかさずカット、速攻へ移して前半で勝負をつけた。

技術面では、神戸の得点のすべてはポストプレーからであり、ミドルシュートの研究が要よう。大崎は出足のよいカットと、ミドルシュート封じはあざやかだったが同じようなポストプレーで7点を奪われたのは一考を要するのではないだろうか（赤松英男）

富士レジン 19（10–9, 9–7）16 宗形製作所

【宗形】		得
GK	南	0
FP	北田	6
	中林	3
	五味	3
	吉川	3
	久保	1
	東出	0
	駒井	0

【富士】		得
GK	市野瀬	1
	重見	0
FP	林	4
	小森	3
	狩山	9
	池上	2
	横野	0
	桜間	0
	坪内	0
	十河	0
	竹尾	0

（主審 岡村）

19（1）7MT（2）16

○……前半は両者とも決定的戦術に乏しく低いペースで盛りあがりに欠けたが、前半終了まぎわ富士GKのパスアウトは、前に出すぎていた宗形GKの虚をついて得点となり、心理的にも宗形へ大きな負担を与えたのはたしかだ。

後半、宗形挽回をみせるかにみえたが、乱戦気味のボールカットの応しゅうとなり、これがかえって富士のペースを上向きにさせる結果となり、しかも富士のシュートの多様性ははるかに宗形を上廻った。

池上、狩山、林らのパスワーク

はキープ力とスピードによる機動性にすぐれ、完全に宗形を陵駕（りようが）する積極さで圧倒した。

宗形の敗因は迫力の不足からくる集中性の欠如といえよう（光島磯雄）

三景　37（17—5、20—3）8　川崎車輛

	【川崎】	得	【三景】	得
GK	佐々木	0	小野	0
GK	片山	0		
FP	守屋	2	竹村	8
FP	高井	3	尾形	1
FP	岡崎	0	江名	7
FP	西本稔	0	榊	16
FP	和田	1	伊藤	3
FP	岩井	2	外岡	2
FP	西本浩	0		
FP	西井	0		
FP	小田	0		

（主審　太田）

37（1）7MT（1）8

〇……立ちあがり両者、ポストプレーを活かして三景が先取点をあげれば、川崎もサイドからGKの足もとを狙ってゲット。

前半6分あたりまでは同じような経過をたどったが、7分をすぎてから三景のペースとなり、速攻・遅攻を上手に使い、守っては身長差を利して守備を固め、相手のポストへのパスをカットして攻めたてた。セットを組んでからの遅攻ではダブル・ポストからブロックを使い、飛びこみシュートや、ジャンプシュートなど多彩な攻撃で前半に大量17点をあげた。

後半に入って8分まで、両者得点がなく、平凡な流れとなったが三景は大きく開いて真中を開き、サイドから切りこんでパス、デイフェンスをひきつけて再びポストを完全なノーマークで完ぺきなシュートと一方的な試合展開であった。

全体を通じて三景のサウスポー4人をそろえた独得のチームプレーが印象的であった（丸岡一清）

住友化学　22（8—5、14—7）12　日本鋼管福山

	【鋼管】	得	【住化】	得
GK	石山	0	季原	0
GK	田中	0	成行	0
FP	黒田	0	神代	1
FP	中村	1	松井	5
FP	松村	1	長峯	3
FP	藤井	0	加藤	3
FP	金高	1	北山	3
FP	藤島	5	落海	2
FP	管原	2	白石	5
FP	浜田	1	上田	0
FP	枝川	1	公文	0

（主審　東）

22（0）7MT（3）12

〇……総合力に一日の長が見られる住化の順当勝ち。

鋼管福山は立ちあがり住化のプレス・デイフェンスに圧倒され、得意のセットプレーがうまくシュートに結びつかず、まずいスタートを切ったのが住化に余裕を与えることになった。

住化は前半なかば攻撃に凡ミスが目立ち、そこをつけてまれて一時は6—5と肉はくされたが28分松井、29分長峯の得点で後半への優位を強めた。

鋼管は、後半セットオフェンスを生かすべく、よく動いたが、長身・中村に今一歩の冴えがなく、またポストの動きに一考なく得点にはあまり結びつかず、逆に得点を欲しがるがあまりに乱れを生じて、住化の加藤、ベテラン北山らの巧妙な攻撃につきはなされてしまった。

両者とも、最後までスピードとファイトのある攻防を見せ、気持ちのよいゲームだった（東嘉伸）

三景、住友化学に惜敗

▽準決勝

大崎電気　43（20—5、23—8）13　富士レジン

	【富士】	得	【大崎】	得
GK	市野瀬	0	福本	0
GK	重見	0	下里	0
FP	横野	0	北村	4
FP	竹尾	0	金田	7
FP	小森	1	井上	11
FP	林	2	近藤	10
FP	桜間	0	西村	1
FP	狩山	7	竹野	2
FP	池上	3	片山	1
FP	坪内	0	加藤	7
FP	十河	0		

（主審　嶋田）

43（1）7MT（1）13

〇……富士は、開始直後から固くなって前半は大崎GK福本の好守にシュートを阻まれ、なすところなく終えた。

後半、大崎がGKを下里に代えたことと、デイフェンスの帰陣の遅さに助けられて、ようやく得点することができた。

大崎は速攻につぐ速攻で、富士のデイフェンスを完全にさせないうちに得点を重ね、セットオフェンスではポストを巧みに動かして確実なポイントをあげていた多彩な攻撃ぶりが大差となってあらわれた（岡村久）

住友化学菊本　16（8—7、8—5）12　三景

	【三景】	得	【住化】	得
GK	小野	0	季原	0
GK			成行	0
FP	竹村	2	加藤	10
FP	尾形	2	北山	2
FP	江名	1	白石	1
FP	榊	2	上田	0
FP	伊藤	3	長峯	1
FP	外間	2	松井	0
FP			落海	2
FP			公文	0
FP			神代	0

（主審　丸岡）

16（1）7MT（1）12

〇……実業団チームとして古い伝統をもつ住化と、本大会初出場の三景との試合はゲーム前から実力伯仲が伝えられ予想困難とされていたが、蓋を開けてみるとまさにその通りとなった。全くのシーソーゲームで、どちらとも2点リード出来ずに前半を終った。後半、三景は伊藤のシュートで同点として振り出しのスタートを切ったと思われたが、住友化学もエース加藤を中心に再び3点のリードを奪って楽にゲームを進めるかと思われたが、三景も着々得点を重ね後半16分までに再び同点としたのがヤマであった。その後、住友化学は北山のインターセプトによるドリブルシュートでリードを奪ってゲームを住友化学のペースにのせて勝機をつかんだと云える。結局三景はエース江名をはじめ尾形、竹村に得点が少く、一方住友化学は加藤、北山が順当な得点をあげたのがこのゲームの勝敗を決したと云えるだろう。（望月伸三郎）

▽決勝

大崎電気　21（10—7、11—8）15　住友化学菊本

	【住化】	得	【大崎】	得
GK	季原	0	福本	0
GK	成行	0	下里	0
FP	神代	2	加藤	0
FP	白石	2	金田	1
FP	落海	1	井上	3
FP	長峯	1	近藤	9
FP	加藤	9	西村	2
FP	北山	0	竹野	6
FP	上田	0	北村	0
FP	公文	0	片山	0
FP	松井	0		

（主審　光島）

12（2）7MT（5）15

過去決勝で三回、今大会で四度目の顔合せで十分相手方の手のうちが分っているだけに、住友にしては何とか大崎を、大崎は王者の座を保つために共に敗けられない試合であった。両選手共熱のこもった攻防が展開され、6分大崎の近藤が正面からのフエントで先取点を挙げれば、住友白石が右サイドから飛込み1点をかえしてシーソーゲームの様相を呈してきた。

しかし大崎は、出足のよいカット、速攻、早いローリングで住友防禦陣をゆさぶり、近藤のうまいシュートと竹野のポストプレーが発揮されてリードを奪った。

住友は、北山のゆさぶりから加藤の強肩と、白石の倒れこみシュートで大崎を追いこみ、後半ようやく肩の力がほぐれた両軍は随所に好プレーを演じ、福本、季原両GKともによく守り21対16で大崎の優勝となった。（嶋田新太郎）

日本、予選なしで出場か
一九七〇年の世界男子7人制

日本協会が、非公式に入手した情報によると、一九七〇年(昭45)フランスで開かれる第7回世界男子7人制選手権に、日本はアジア代表として予選を経ず、直接本大会に出場できるようになった模様である。予選は申しこみ28ヶ国のうち13ヶ国をふるいおとすために行われるが、日本のほか、予選なしの特権を得たのは前回優勝国のチェコと開催国のフランスだけ。

このほか前回2位のデンマークはオランダと同3位のルーマニアはイスラエルと組み合わせたもようで激戦が予想されるのはユーゴー、ブルガリア、スェーデン、フインランドなどである。これは世界選手権規約にわるとおりである。

仏スポーツ紙も報道

ハンドボールに深い理解を示すフランスのスポーツ紙〝レ・キプ〟は2月14日付紙面で「IHF技術委は、第7回世界男子7人制選手権に日本は唯一のアジア代表として出場する」と報じている。

★☆★☆★ 海外トピックス

▽……女子世界選手権(11月・ソビエト)の予選開始、45年の男子世界選手権エントリー発表など各国のハンドボール界は相次いで最高峰大会が近づいたため活発な動きを見せ、このところナショナルチームによる対抗戦が目立って増えて来ている。

多くの場合有力国は比較的やりやすい相手を選んで腕だめしをしているようだが、最近もっともヨーロッパの関係者やファンを驚ろかせたのはブルガリアがソビエトを20―17で破ったニュースである。

ソビエトにとっては不覚の一敗といえようがこの一戦で、ブルガリア株はがぜんあがっているという。

▽……4年ごとに開かれるオリンピックのあいまをぬって行われる世界の地域競技会は日本ではアジア大会、パン・アメリカン大会などになじみ深いが、ハンドボールが正式種目として採りあげられているのは地中海大会だけである。

昨年くれ、チュニジアで行われた第5回地中海大会は13競技に熱戦がくりひろげられ、ハンドボールはユーゴが優勝を飾った。決勝リーグの成績は次の通りである。

ユーゴ　35―9　チュニジア
スペイン　18―14　アルジェリア
ユーゴ　29―10　アルジェリア
スペイン　15―13　チュニジア
チュニジア　11―6　アルジェリア
ユーゴ　15―11　スペイン

【順位】①ユーゴ②スペイン③チュニジア④アルジェリア

▽……一方、女子で最大の話題はソビエトの進境であろう。

本誌47号既報の通り世界チャンピオンのハンガリーを11―8、14―7で連破したのをはじめ最近ではデンマーク・ナショナルに完勝11月レニングラードを中心にして開かれる第4回女子世界7人制での地元優勝達成へ着実に歩みを進めている。

このほか最近行われた主な女子のナショナル・マッチとしては〝北欧5ヶ国対抗〟があり、順位は①ノルウェー②デンマーク③スウェーデン④アイスランド⑤フィンランドであった。(杉山)

日本リーグ準備委発足

日本リーグ問題が再燃、実業団連盟内に日本リーグ(仮称)準備委員会を設け、具体案について検討を進めていくことになった。試合をなるべく地方で行なうようにするため、多くの関係者を含め検討を重ねることになる模様。

ベスト・セブンを表彰

全日本実業団連盟では第8回全日本実業団選手権大会の優秀選手(ベスト・セブン)と男子敢斗選手を次のように選び、女子は11日熊本で、男子は14日大阪で表彰した。

▼男子　▽GK福本弘▽FP竹野奉昭、北村尚英、金田純男、近藤信行(以上大崎電気)、江名英彦(三景)、加藤久勝(住友化学菊本)

▼女子　▽GK渡辺美知子▽渡辺好子、長谷川邦子(以上田村紡)、垂水秀代、新保郁子(以上大洋デパート)、早川清美、鈴木功子(以上大崎電気)

▼男子敢斗選手北山義広(住友化学菊本)、尾形譲(三景)、高橋勲(常盤工業)、松村豪夫(日本鋼管福山)、狩山政雄(富士レジン)、

【訂正】本誌前号48頁、大崎電気男子がこの大会で第1回以来36戦無敗となっていましたのは30戦無敗の誤りでした。

新理事長に浜田氏
全日本実業団連盟

全日本実業団連盟は2月11日夜大阪で常務理事会を開き、新理事長に浜田猪三郎氏を決め発表した。前理事長渡辺和美氏は副会長になる。浜田理事長は立大出、現日本協会常務理事(会計担当)。

競技規則改正の要点について

審判部長　安藤純光

日本ハンドボール協会は、一九六六年の国際ハンドボール連盟総会における競技規則改訂および六十七年の審判会議において加えられた若干の改正にもとづいて、競技規則の改正を行なった。昭和四十三年度版「ハンドボール競技規則書」は十七条一二六項にわたるものであるが、従来の（注）、＜申し合せ＞の他に〔原注〕が加わったことが特筆される。この〔原注〕は国際ハンドボール連盟発行の競技規則書に新らたに加えられた（注）であり、従来の日本の解釈による（注）と区別する意味で〔原注〕としたのである。これら〔原注〕の中には、すでに日本でも実施しているものが文章になってあらわれたものもあるが、女子の競技時間の改正やタイムキーパーの分掌など競技の運営の面ではかなり大きな改正である。この他にこれら改正にともなう競技規則解釈、申し合せも一部改正された。

以下この度の改正の要点（○印）を条を追って述べることにする。

第1条　競技場

1の1（注）　望ましい競技場の大きさは、長さ40M巾20Mである。

この大きさが世界選手権大会でもつかわれ、ミュンヘンのオリンピック大会でもこの大きさになる（昨年来日のドイツチーム監督トルカ談）。さらに国際連盟にも問い合せをして、改正した。

1の2……。各色の巾は、角では 28cm 同色をつかい他の部分は 20cm でなければならない。ゴールにはネットを張らなければならない。ネットはゴールインしたボールが決して直接はねかえらないように張る。

○二色がそれぞれ 20cm の巾で塗りわけられていたが、上の角の部分は 28cm（20cm＋ゴールポストの太さ 8cm）で左右が同色でなければならないことになった

○ゴールネットの張り方としては、現在使用しているネットの他に、もう一枚ネットを上からたらして（ゴルフ練習所のキャンバスのような役をする）いることが世界選手権大会の報告にもあるので、至急に研究して決定したい（研究中）。

第2条　ボール

2の4〔原注〕　競技開始に使用したボールをチェンジしたときには、次の中断のときに再びもとのボールにかえて使用する。

○競技開始のとき使用したボールを、そのボールが使用不可能にならない限り最後までつかうということである。

第3条　競技者

3の3……。ベンチはタイムキーパーのすぐそばにおかなければならない。

スポーツマンシップに反した理由で競技場を去った競技者は、残りの競技時間全部にわたって失格とし、ベンチからも除外する。そのチームは、競技場内にいる7名の競技者とベンチにいる3名の交代競技者で競技をつづける。

○ベンチは、センターラインの延長線のところから左右に2m（競技場設営基準）の位置におく。

○失格という言葉が新らしく出てきたが、失格とは残り競技時間全部にわたって競技場はもちろんベンチにいることもできない。

3の5　交代競技者は、交代させられる競技者が競技場外に出たならば、いつでも、そしてまたくりかえし、レフェリーに告げることなしに参加することができる（フリースロー）。交代競技者は、自己のベンチから交代することができる（フリースロー）。

○ゴールキーパーを含めた全競技者は、レフェリーに告げることなしに競技に参加することができることになった。

3の5＜申し合せ＞　ベンチは防禦している側におき、前半終了後交代する。

○サイドコーチをしてもよいことになったので、そのためには防禦している側にベンチをおいた方が合理的であるので改正した。

第4条　競技時間

4の1　競技時間は次の通りである。一般男子の場合は30分×2で10分の休憩、一般女子および高校男子の場合は25分×2で10分間の休憩、高校女子および少年の場合は20分×2で10分の休憩……。

○一般男子、一般女子という新らしい言葉を用いた。一般女子の競技時間が前後半とも5分延長され25分ハーフになった。女子の体位の向上によって改正されたものと推測できる。

4の10。競技延長は、一般男子は5分×2でその他は3.5分×2である。

○一般女子、高校男女、少年の場合は第一延長、第二延長とも3.5分×2である。高校男子の延長時間が改正されたわけだ。

第7条ゴールエリア

7の2＜申し合せ＞　競技中ゴールキーパーが前進し、自分のゴールがからになったような状態のとき、フイルドプレイヤーが入って代役をした場合には、その競技者を退場させる。そのためにシュートが入らなかった場合は、さらに7Mスローを行なう。

○この申し合せは四一年度の学生選手権大会以来の全国大会において申し合せられている事項であり、改正にともなって申し合せとして新らしく入れた。

第8条　ゴールキーパー

8の8　競技中にゴールキーパーがフィールドプレイヤーと交代するときには、レフェリーに通知しなければならない（7Mスロー）（第3条の1）。

○交代でレフェリーに告げなければならないのはこの場合だけである。

第9条　得点

9の2〔原注〕　レフェリーが得点を宣し、次のスローオフが行なわれたら、得点の取消しはできない。

○ネットの不備などでボールがゴールに入ったかどうか不明の場合、ゴールジャッジが得点と認め、レフェリーも得点を認め、次のスローオフをしてしまったら、その得点の取消しはできない。逆に、ともに得点を認めなかった場合も同じである。

第10条　スローイン

10の2（注）　室内の場合、競技場の上の施設にボールがふれたときは、最後にふれたチームの相手側によって、施設にふれた地点のサイドからスローインによって競技を再開する。

第12条　ゴールスロー

12の2〔原注〕 ゴールキーパーがゴールエリア外から行なった場合、レフェリーはやりなおしをさせる。

　つまりゴールスローは必ずゴールエリア内から行なわれなければならないということである。

第13条　フリースロー

13の5〔原注〕 レフェリーがフリースローを命じたとき、連続動作で不正な位置にいる防禦側の競技者は、とくに影響のない場合には、そのままでよい。フリースローの際わざわざ近くに立つとか、その他の反則で遅延をさせることがあった場合には、レフェリーは注意し、再びくりかえすときには退場もしくは追放を命じる。

○追放という言葉が新らしく出てきたが、追放とは残り競技時間全部の退場で、競技場に出ることはできないがベンチにいることができる。

第14条　7Mスロー

14の2〔原注〕 退場させられている競技者が入場し、7Mスローを行なった場合には、7Mスローはもう一度くりかえして行なわれ、スローを行なった競技者は失格となる。相手がスローを行なう際にやじるなどして妨害した場合には、注意、退場、追放などで罰し妨害の結果ゴールインしなければもう一度7Mスローを行なう。

○相手が7Mスローを行なう場合に近くにいて、相手をけんせいするような言動をする例があるがこれらに対する処置である。

　14の8〔原注〕 ゴールエリアの附近で防禦側の反則により得点のチャンスが阻止され、得点できなかった場合には7Mスローを必ず命じなくてはいけない。

○従来も7Mスローを命じているがこの度の改正で必ず命じなければならないことになった。

第16条　各種スローの詳細

16の1〔原注〕 ボールは一人の競技者が保持する。

○フリースローの場合など、二人でボールを持っている例をときどき見るが、これができなくなった。

16の3……。不正な配置のままはじまったならば、レフェリーはそれを正し、その後の競技は笛とともにはじめられる。競技遅延、注意、退場、失格、追放などによって中断した場合には、レフェリーの笛によってフリースローが行なわれる。

○不正な配置を正したときおよび競技遅延、注意、退場などによって中断したときには、次のプレイはレフェリーの笛によって始められることになった。

第17条　レフェリー

17の4〈申し合せ〉 公式競技の場合には、控審判員をおくことが望ましい。控審判員は、提出されたメーンバーの点検、チェンジボールの管理、競技時間の計時などタイムキーパーの役割をする。

○控審判員については従来実施されてはいたが規定はなかった。

17の6〔原注〕 競技者を注意する際には、レフェリーは大きい声で「注意」といい、こぶしを高くあげ、観衆にも注意された競技者がはっきりとわかるようにする。

○レフェリーがこぶしを高くあげて「注意」することによって注意を徹底させる意味がある。

17の8　退場には、2分間、5分間、また残り競技時間全部がある。3回目の退場は残り競技時間全部としこれを追放と呼ぶ。

17の8〔原注〕 退場させられた競技者は退場時間中ベンチにいる。退場時間は次のように計時する。

　①プレイが中断したときは、中断の後の再開の笛から。

　②プレイが中断しない場合には退場者がサイドラインを越えたときから。

　退場させられた競技者は、従来は退場時間中記録席の前にいたがこんどの改正でベンチにいることになった。

17の8（注） ⑵粗暴な行為および反スポーツマンシップの場合〈①2分〉〈②5分〉〈③追放〉の順で退場、また反スポーツマンシップの場合には〈①5分〉あるいは〈①追放〉もある。

○旧競技規則では、2、2、2、5、残り時間の順で退場が命じられたが改正された。

17の8〈申し合せ〉 故意、明らかな粗暴行為に対しては、個人を対象として退場を命ずる（フリースロー）とともに状況によって7Mスローを与えてよい。

○不正交代、競技遅延の場合にはチームを対象として退場を命ずるが、この場合には個人を対象に退場を命ずる。

17の11（注） 「競技の遅延」とは何回かのパスが何の役にもたっていなかったり、パスされた方向が、その後の攻撃の展開に何の意味ももたない場合をいう。ただし時間だけに拘束されるものではない。

○ストーリングを規定することは非常にむずかしく、常に問題になっているが、今回一つの考え方が成文化された。

17の13　レフェリーは次の場合に笛を吹く。

（A）　競技開始時
（B）　得点
（C）　規則違反
（D）　ボールが境界線を越えたとき。
（E）　スローオフ、コーナースローおよび7Mスロー
（F）　第16条の3のフリースロー。
（G）　第16条の9の遅延。
（H）　第4条の9のレフェリースロー。

○（F）については前に述べた。(G)はスローイン、ゴールスローおよびフリースローの際に遅延のあった場合である。(H)競技が時間より早く終ってしまったときに、レフェリースローで始められる場合のレフェリースローには笛が必要となった。

17の15　タイムキーパーは次のことを管理する。

（A）　時間。
（B）　交代競技者の出入場。
（C）　退場者の時間。
（D）　記録係とともに競技者の入場。

　前半終了時と競技終了時には、はっきりと笛を吹いて終了させる。

○競技は今回の改正でタイムキーパーの笛によって終了することになる。したがってタイムキーパーは、かなり重要な役割をすることになる（17の4申し合せ参照）。

　以上がこの度の改正の主な点である。この他にもこまかい点で多くの改正点、修正点がある。この改正によって実際に競技を運営してみて、不都合な点が出てくると思われるが、それらについてはよく研究討議して、よりよき競技規則解釈と解釈の統一をはかってゆきたい。

日本ハンドボール協会創始期の思い出(3)

松本良三

本稿は、早慶両ティームを帯同して朝鮮にわたり、送球の普及、宣伝につとめた旅から帰った直後に書いたもので謂わば「土産話」である。「満州ひと巡り」「物」及び「人」の三篇から成る。その内容は、今でも面白いと思うので、一部修正して、茲に再録する。

尤も、読む人によっていろいろに取れると思う。殊に「満州ひと巡り」は軍国主義謳歌などと解されるかも知れないが、それは当らない。私の目的は、敗戦の結果、日本在来の諸権威は無力化し、国民は節操なき個人主義となり、男性は腰抜けに、女性は女権に酔って、無責任な刹那主義に堕し、政治家は、いつの間にか植民地根性に陥り、国際問題を国内政争の具と為し、無意識の中に国民の思惟を毒し、その独立心を蝕み、又、思想かぶれした青年がドイツが第一次世界大戦に敗れた苦い経験を忘れ、第二次世界大戦を引き起し、国を破壊に導いた如き愚をせぬよう、正しい国家観、健全な人間性の育成に資せんとするにある。

私は今より40年許り前に欧州に旅した。そして、第一次世界大戦でひどくいためつけられ、国家的難局に立ち、而も不動の姿勢を持し、国力の恢復につとめる三人の指導者をみた。それはベルギーのレオポルド陛下、ドイツのヒンデンブルグ大統領、イタリーのムソリニ首相である。

ベルギーのブルッセルスから可成り離れた所の戦跡を訪ねた時、そこに在る博物館の一室に、レオポルド陛下が荒涼たる原野に吹きすさむ風に軍服のすそを靡かせ、お一人で立たせらるる図を拝した。案内のベルギー人は陛下が戦時中、親しく前線に立って祖国の防衛に当り、それはかの世界戦史に残るベルダンの激戦となり、而して戦後は国民一般の深い敬愛の的であることを声をふるわせて語るのであった。外国人である私も眼がしらがうるむのを覚えた。

私は、明治天皇が、日露戦争の折、親しく広島に車駕を進め、寸刻を争う戦時決裁に当られたこと、又、戦後の国家行政に、日夜宸襟を悩まされ、当時、頻々として行われた内閣の更迭に際し、一総理に対し「卿等には、辞職があるが、朕には辞職がない。」と言われたとゆうのを思い浮べた。

日本の天皇制を以って万邦無比の主権と為す所以は、茲にある。それは決して神がかりな架空の理念ではない。それは完全に機官化された没我の統治機構なるが故である。慶応義塾の元塾長故林毅陸博士は政治学の大家であったが、今より数十年前に「天皇制は無力なるが故に強力である。」と言われたとゆう。蓋し、矛盾の中に真理を見た博士の慧眼は驚くべきものである。

ウエスト・ポイント士官学校を、父子二代にわたり最優等の成績で卒業した聡明なマックァーサー元帥が、日本占領後、只一回の今上陛下との会見で、何で是れを見のがそう。自らを空うし、只、国民の幸福をのみ思念さるる陛下の御人柄に深い感銘を受けたとゆう。

ヒンデンブルグは、第一次世界大戦中独軍の総帥であった。国民は戦に敗れはしたが、その国土に、敵の一兵も入らしめなかったヒンデンブルグ将軍に無限の信頼を感じた。敗戦と共に、ドイツは帝政を廃し、共和国となった。ヒンデルブルグは「運命は私を一共和国の首班と為したが、私のホーヘンツォルレルン家に対する忠誠の念に変りはない。」と言い、よく国民感情の機微をとらえ、堅実に戦後の処理に当り、全国民の信望を一挙にあつめた。

それは我国の敗戦後、凡ての高官、要職の申し出でを拒みつづけた小泉信三博士が皇太子殿下の師伝として仕官し、殊に殿下の御成婚に当っては、よくこれを翼賛し、万全の完結に導いた博士の誠意、沈勇に対する国民感謝の念に比すべきものがある。

仍て、ムソリニであるが、彼は1883年に鍛冶屋の息として生れた。父はサンディカリズム運動を支持し、ムソリニは、その影響を受けた。両親は、貧困の中に彼を師範学校に送り、彼は一時小学校教員となった。やがてそれを止め、爾来、革進運動に身をささげた。彼の目的は「階級闘争」であり、「教養あり、富み且つ自由な」イタリーの建設にあった。イタリーをして巨大な帝国たらしめる如きは、彼の関心外のことであった。1911年のトリポリ戦争に反対し彼は投獄された。

第一次世界大戦に当っては、始め非参戦論であったが、国内情勢の変化と共に、参戦論者となった。戦後イタリーは戦勝国とはいえ、経済的には、破産寸前にあり、北部イタリーの冶金産業労働者の蜂起をきっかけに、国は緊迫の極にあった。

ここで彼は思想的に180度の転回を為し「若くして社会主義に走らざるは、不正直である。中年に至り、猶それに固執する如きは、大馬鹿である。」となし、嘗っての、参戦論者、右翼青年、資本家を糾合し「国家ファシスト党」を結成し、自らその首領となった。国王の信任を得て、宰相の座につくや、完全な独裁政治を施き、古代ローマ帝国の復興こそイタリーの使命であると為し、遂にアフリカに軍を進めた。

第二次世界大戦後、彼は失脚し、その終焉は悲劇であった。彼はその生涯を通じ思想的に不徹底であり、政治的には変転常なきものであったが、その間、終始、彼を支えたのは、異常とも称すべき権力欲であった。それは恐らく、幼少の頃、強い性格の持主であり、教職にあった母親からの影響に因るものであったろう。而して、彼が時を得た時は、治政大いに挙がり、イタリーは彼の出現を境として在来の余弊は一掃され、国風は一変した。筆者が同国に旅した頃は、彼の権勢絶頂にあり、国民は繁栄と秩序の中に彼を仰視し、その威令に服した。

およそ、国の主権たるものは、此三つの例に見る如く、強力なるが故に意義がある、

それが愛によるか、信によるか、畏怖によるかは問題ではない。要は治下の人民を全人的に支配し得ればよいのである。それは国とは一個の集団であり、それはその存続の為に、その成員である個々人の無智利己心を制してそれ自体の必要を施行する。

集団社会学或は人種闘争論の先駆として知られるルドリッヒ・グンプロヴィッチは「個人を基調とする心理学者の誤りは、個人を以って、思考能力を有すと為す点にある。実際、考えるのは、個々の人ではなく彼が属する社会なのである。」と言っている。是れはよく引用される彼の言葉である。是れを逆に言えば、一集団の要請に適応する者こそ、頼もしきその成員なのである。論下の、国なる集団の場合には此種の者こそ、真の意味での国民なのである。

翻て、我国の現状を見るに事態は必ずしも此論旨に添うものではない。岸首相にしても、佐藤首相にしても、我国現下の国力を充分意識しつつ、国民の与望に応えんと他国に旅立つ玄関先で、悪罵と投石で送られる如き我国民は何とゆうなさけない存在に、成り下ったのであろう。又目下問題となっている倉石発言の如きも国民の国家観にして帰一すべき中核を持するものならば何等問題視すべき事柄ではないのである。

さればとて、桁違いな国防力を有する諸国に対し、薄っぺらな反抗を示した所でそれは徒らに国の品位を、貶すに過ぎない。我国民の為すべきは、よく自らを磨き、勤勉力行、健全な人間性の保全育成につとめ、世界の尊敬に価する民族たるの矜持を養うにある。自らの人間性を高むるは、やがて他の人間性の呼応をよぶものであり、これぞ世界平和への道である。私は是れを「人間性への信倚」と言う。

（一）満州一巡り。

昭和15年7月24日、京城で早慶ティームが解散した時、その学生の多数は、更に満州北支へと驥足をのばした。私も其夜11時の汽車で奉天に向った。25日の晩奉天のヤマトホテルに投じ、翌朝観光に出かけた。最も満州的のものとして私の感興を引いたのは黄甍朱柱華麗を極めた北陵であったが、私の専門から云えば、同善堂は興味深いものであった。是れは今より60年余り前（昭和43年から言えば約90年前）に左賓貴によって創られたもので、薄幸な人に対し、その出生前より哺育、職業、結婚、養老、死亡、葬式、供養に至るまで面倒を見る世界に知られた救済施設である。殊に捨子を受取る救生門は有名なもので、この小窓に幼児を入れると、その重みでベルが鳴るようになっている。然し日本国民として、私の心魂を眼覚ましめたのは、北大営の戦蹟であった。是れぞ、柳条溝鉄道爆破と共に満州事変の発端となったところである五〇〇の寡兵を以って一〇、〇〇〇に余る敵の精鋭を破った果敢勇戦の場所である。堂に入った説明を聴き、遠く日露戦後に於ける奉天の大会戦を想起して、民族の興隆の難きを思わしめられるのであった。

此日、午後4時10分、急行「はと」に乗じて新京に向った。担々たる満州の野を行くこと矢の如く窓外は一眸千里、実に一木の遮るものもなかった。ふと見れば、大日輪は正に地平線下に没せんとしているではないか。これぞ「赫き夕日の満州である。」何たる壮観であろう。然し嗚呼あの夕日、今に変らぬあの夕日。友は野ずえの石の下。」私は一抹の寂寥を感ずるのであった。

新京では第一ホテルに投じた。9時頃であった。翌朝は例の通り観光に出かけたが、規模広大な官庁街、ビジネス・センターに一驚を喫し、その完成の暁に於ける偉容を偲んだ。やがて寛城子より南嶺の戦蹟に到った。満州事変中、最激戦地と称される場所であり、倉本少佐以下24勇士の壮烈な戦死の場所である。その一つ一つの地点に墓標が立っていた。われわれは、一老木の下に会して、当時の模様を聴いた。説く者は、声涙共に下り一座寂として眼を欹つる者もなかった。

其晩、11時30分、新京を後にし大連に向った。28日午後4時43分大連に著いた。第一ホテルの竹田氏の御配慮で、星ヶ浦のヤマトホテルに部屋がとってあった。連日の旅行と視察で疲労を感じたが、此星ヶ浦は、さすがに大連が全満に誇る避暑地だけあり快適な海気は、欧米の僻村にでもありそうなホテルの構造と相俟って、私の旅情を慰むるに充分であった。当地で特に興味を感じたのは碧山荘であった。是れは市の東部に在る大規模な苦力の宿舎で可成りの一区劃を為している。満鉄傍系の福昌華工株式会社の経営で優に一万から二万人を収容し得る。彼等は山東、河北より、出稼ぐもので、全満に数百万人居り彼等が故郷に送る金額は年一億四、五千万円にのぼるとゆう。（当時の貨幣、計算による。）

三十日に、旅順を訪ねる心算であったが豪雨で阻まれ、翌日に譲った。先ず市の中央に位する白玉山に登攀し、旅順の全貌を収めた。見渡せば、広袤数里、四囲に展開する諸峰は旅順の港湾を擁して一連の環状を為している。而も敵は此大自然に今なお驚くべき科学の極致を施して一大鉄壁と為したのであった。是れ難攻不落の名を恣にした旅順である。しかも我軍は徒手空拳にも等しい肉弾を以って、是れに当った。「屍は山を築き、碧血は流れて河を為し、彼等の砲弾繁く、山形ために改った。」とゆう。東鶏冠北堡塁や爾霊山の頂に立って、眼前、死闘の足跡に触れ、不撓不屈、祖国の危機を救った英霊を思い、涙滂沱たるを禁じ得なかった。実に旅順に参って泣かざる者は日本人と称し得ざる者であろう。

そして私は斯の有名な乃木将軍の詩「金州城外斜陽に立つ」を思い浮べるのであった。

山川草木転荒涼、征馬不前人不語
十里風腥古戦場、金州城外立斜陽

此詩は戦場詩であるが、それは必ずしも武力とか戦争を謳ったものではないようである。明治天皇と一般国民よりの全幅の支持により旅順の攻略に当った将軍が、攻めても攻めても陥ちぬその堅塁に精根をつくして、追いつめられた心境を吐露したもののようである、戦終り、長子勝典戦死の場所である金州を訪ね、こみあげて来る人類のいじらしさを描いたものと称すべきであろう。そこには敵も味方もない。又将軍でも、教育者でも、詩人でもない、ただの人間乃木の姿がうかがわれる。それは人間性の浮彫りである。

☆本☆誌☆恒☆例☆

42年度重大ニュース

トップ飾る「西独男女の来日」

本誌編集部では恒例の昭和42年度重大ニュースを次のように選んだ。

これは昭和42年4月から43年3月までに起った球界の出来ごとのなかから、球史上、将来にまで記憶されるべき事項を並べたものである。

①西ドイツナショナル男女チーム来日。日本側男子13戦3勝、女子11戦5勝（9月）

7人制一本化後、初めてヨーロッパから迎えるナショナルチーム特に女子の外国チーム来日は史上初めてだった。西ドイツは、さすがにハンドボールの祖国らしい流れいなプレーを見せたが、日本側も善戦。女子はレベルアップの実業団各チームが4勝をマーク、最終戦の全日本は男女とも快勝。世界選手権、オリンピックを控えて大いに意気をあげた。

②田村紡、全国4大タイトルを独占

男まさりの速攻を武器に、不動のメンバーを布いた田村紡は、8月の第19回全日本総合で快勝したのを皮切りに、第22回国体(10月)第13回全日本選抜（12月）、第8回全日本実業団（2月）の各大会をことごとく全勝優勝で飾り、昭和36年度の愛知紡につぐ史上2度目の〝四冠王〟の快挙をとげた。

田村紡のレギュラー7人は、今年11月の第4回世界女子7人制に全日本選抜の主力として出場するが世界の檜舞台で〝魔女〟ぶりを発揮できるか注目される。

③明星高2大タイトルを2年連続飾る（8月、10月）

昨年、高校男子で無敵を誇った明星高（東京）の好調は今シーズンもつづき、第18回全日本高校（8月）、第22回国体（10月）に快勝、2年連続ダブル・クラウンを遂げ〝超高校級〟の名を高めた。

④鈴木達雄氏、第4代会長に就任（4月）

式場隆三郎会長の他界（40年11月）以後空席となっていた会長に鈴木達雄氏（副会長、レナウン工業、同商事相談役）が推され第4代会長に就任したしかし世界女子選手権の手続きミス問題から敏腕をふるう機会もなく辞任されたのはあまりにも惜しい。

⑤荒川清美氏、理事長に就任。新執行部スタート（4月）

41年12月の高嶋冽氏辞任にともなう新理事長選出で荒川清美氏（日体大出、前全日本学連理事長）がそのポストにつき、大巾な異動から新常務委員会を編成した。

⑥世界女子選手権出場手続き遅延から鈴木会長らの引責辞任に飛び火（12月）

今年11月ソビエトで開かれる第4回世界女子7人制選手権の出場申しこみは、42年7月末日に〆切られたが、日本協会は、不手際から参加申請書の発送が遅れ、11月IHF（国際ハンドボール連盟）から出場を認めぬという通告を受けた。このため、鈴木会長、境井国際担当常務理事が辞任する問題へ発展した。

43年1月になってIHFと主管協会のソビエトから出場権復活の朗報がとどけられ関係者は胸をなでおろした。

⑦日本ハンドボール協会、創立30周年を迎える（2月）

昭和13年2月2日創立された日本ハンドボール協会（JHA）は今年で30周年を迎え、1月28日東京体育館で盛大に祝賀式を行ないーそうの発展を誓いあった（本誌4〜6頁参照）

⑧大崎電気男子、3大タイトルを獲得

ベテランを揃えた大崎電気（埼玉）は、8月の第19回全日本総合で、力では上廻ると見られた学生勢を降して優勝、余勢をかって第22回国体（10月）、第8回全日本実業団（2月）にも快勝。老巧な試合運びにいっそうのみがきがかかった。

⑨初の全国公認コーチ講習会開く（9月）

正しい競技の理解と指導のため全国各地及び各組織の中に協会公認コーチ制を布いて優秀な指導者を配置することになり9月25日から5日間、東京で30名が受講、今後の成果を託した。

⑩学生界の王座、男子立教、女子日体大と変わらず

学生界の王座を持って新シーズンを迎えた男子の立教（関東・東京）と女子の日体大（関東・東京）はともに安定した地力を示し、立教大は全日本学生、全日本学生王座、東日本学生、関東学生春秋と学生界の全タイトルをひとりじめにし、日体大女子は全日本学生と関東学生春秋を制した。

この他

▽花巻南高（岩手）全日本高校女子に初優勝▽大阪イーグルス、教員界ナンバーワンの座不加▽全国スポーツ少年団教科目に▽中共遠征とりやめ▽第22回国体で天皇・皇后杯とも埼玉県へ▽関西学生秋季リーグ関西大初優勝。▽国体に沖縄代表初参加（小禄高・高校女子）

連載

日本ハンドボール界の課題（8）

～三十周年を迎えた球界に望む～

地方協会理事長特集（下）

東京・佐野和夫

創立三十周年を迎えた日本ハンドボール協会の発展に心からお慶び申しあげます。現在の協会に育つまでの、関係諸先輩の努力には深く敬意を表する者です。

さて、人間も三十才、壮年期ともなれば、いつまでも若さを売物というわけにはゆきません。何事をするにも、熟慮して行動しなければなりません。ハンドボール協会の今後のゆき方には、大きな責任がかかっていることになります。

先号で地方協会の声をお聞きしました。私もその一人として、全く同感、一つもおろそかに出来ぬ問題であり、日本協会の今後やるべきことは無限の感がします。

しかし、この盛り沢山な中で、いますぐ、考え、実行すべき問題としては、ミュンヘンへの参加だろうと思われます。日本中のハンドボール関係者は一丸となって、この問題と取り組み、選手層の頂点問題と対処しなければなりませんし、日本協会は、このために、労力と財力―(乏しい)、(作るために努力すべき）を惜しんではなりません。

欧米チームと互格に戦える体力、体格づくりにはじまり、欧州諸国に対する地的条件のハンデをいかに克服するか、外人チームとの交流の機会をいかに多く生み出すか…など、勝つための計算と努力が最も必要なこととなってきます。

さて、もう一方、底辺の拡大についても同時限に考え、実行すべきことです（頂点につながっている）。少年から老人に至る層への呼びかけ、今までのように学校教育の一環として行なうこと、実業団、社会人の充実をはかることも方法ですが、一人でも多くのファンを作るため、協会としては、具体的な今までの大会運営、競技の技術の高度化、力強さの要求、さらに高度な審判技術、選手自身の自覚による競技の態度、マナー…etc、手近な問題の慎重な再検討により、一貫した指針のもとに、各分野を動かし、スムースな協会の運営によってハンドボールの大衆へのアピールを考えることが大切だと思います。ハンドボールは「素晴らしい競技」という印象によって大衆の心に喰い込ませることです。

日本協会に望むこと、私達それぞれの協会としてやるべきことはすべて、あまり多くの課題のために混乱してしまいそうです、そこで日本協会で、一貫した目標に至る大方針を立てて、レールを敷き、その目標に向って、皆で脱線しないように前進したいものです。そして現在の科学時代に、協会自身が線路から落ちないように……。

広島・川上正幸

ハンドボール協会があらゆる面に於いて今日の隆盛をみたことは30年の年輪とともに御同慶の至りであります。

11人制から7人制に移行されてからは特に著しいハンドボール人口の増加をみることができたことは関係各位の努力の結晶であります。昨年西ドイツナショナルチームを迎え各地で親善試合を開催しましたが、国際的技術の交流は特に若い選手にとって勉強となり今後大きな示唆となるでありましょう。また多くの指導者は優秀なる技術と強靭なる体力、加えてスポーツ人としてのマナー等を眼のあたりにみて、現場に於ける指導にも一段と拍車をかけるでありましょう。

東京オリンピックを契機に前後して各スポーツ界の国際的交流は誠に顕著であり、その成果たるやすばらしいものがあります。ハンドボール協会も機会があれば広く世界によびかけ国際的技術交流と我国ハンドボール界の普及発展を図り、国際舞台進出へのバロメーターとするべきだと思う。また次の世代を担う若鮎を育てるべく強く学校教育の中に浸透するよう働きかけをすること、わけても中学校・高等学校と一環性があれば理想的だと思う。底辺の拡充はスポーツ界の基盤であることは周知のとおりであります。

中学校におけるハンドボール指導は急務ではありますが、現状では非常に弱態であり、また現場指導の担当者も少く大変困難な点はありますが、二歩前進一歩後退の牛歩の精神で着実に成果をあげて行きたいものだ。

協会創立30周年の佳節にあたり所信の一端を述べ今後の協会発展を祈願いたすしだいであります。

宮崎・池之上明造

日本ハンドボール協会も発足三十周年を迎え関係当局のなみなみならぬ努力の賜と敬意を表します。当宮崎県もおそまきながら協会に加入を認められ日本協会の御指導のもと日一日と成長してゆくよう努力致しております。日本協会も全世界を相手に進歩の一途をたどり今や覇者の貫録十分な領域に達しようとしております。その努力たるや敬意の他ありません。

しかし、ハンドボールを愛する底辺の育成も見逃すことは出来ないものと信じます。世界を相手にする層と広く底辺で伸びる層との、連けいをうまくとり御指導の十分なる浸透をお願いしてやみません。辺地なる宮崎より日本協会の御発展を祈る次第です。

福岡・中西敬一

新興スポーツとしてややもすると資金面、競技人口、会場、日程等種々な制約を受け思うにまかせなかった時代を振り返り現在のめざましい普及、発展を見るに早三十年を経過したのかと夢のような感じさえ憶えるものです。

然し我々は現状にあまえること

なく常に反省をし前進しなければならない。チーム数、競技人口も年々増加の一途をたどっているが只それを待つのではなく新聞、テレビ、ラジオとあらゆるマスコミの協力を得てより積極的なＰ・Ｒに全力を傾注すべきではないだろうか。又中学校対策、財源の確保、規則、審判の研究徹底、各種大会の持ち方、地方協会との協力体勢ミュンヘンオリンピック対策等々諸問題の山積している現状に対して一日も早くより強力な打開策を打ち出されんことを切望致します。

新潟・渡辺五郎兵衛

一九六八年それは輝かしきスポーツの年である。メキシコシティに於けるオリンピック。未来あって過去なきスポーツの世界で限りなき前進をし一大飛躍をし、世紀の記録に挑戦する日本のあらゆるスポーツ界全力を挙げその真価を世界に示す絶好の機である。そのすばらしき年に迎えて三〇周年堅実に発展を続ける日本ハンドボール界の前途は洋々たるもの誠に慶しき哉。やがてオリンピック種目としてデビューする、その魅力は世界の耳目を集めるだろう。培った力を結集しその時こそすばらしい成績を挙げハンドボール日本の名を高め輝かしい歴史の一頁を綴って欲しいものです。さればこそ次期オリンピックを目指しスタートは切られているのだ。諸外国の情勢は憶測するだけだが、その統制のとれたプロコーチ制は？合同生活のチームワークから生れる技術、体格、体力の問題、愛国心からの勝敗への執着等々、それらに対するに政治的、経済的な裏付けを持った施策が欲しい。目を転じ国内の実情は、沖縄を容れ全国に協会が設立され日本協会擁立の確乎たる基盤は出来上った—然し地方に於ては問題が山積している。

当事者、指導者が普及に怠慢なのか、付髄してルールの問題、審判法、コートの広さ、安全性特に少年に危険はないか、ボール、実際にやって楽しく観て面白いとして小学生時代から教材に入れ広厚くい選手層の中から逸材を見出すような事が出来ないものか……等々。

プロコーチ制の確立、諸外国との交流を盛んにし深い理論を持った技術指導、研究室設立、それらによりすばらしい力を持ったチームが誕生し大衆を魅きつける日本リーグは可能となる。地方と中央が一体となった和と協力で日本スポーツ界の礎となり否れい明となって光り輝く業績を残して三十周記念史となるよう夢と期待は大きく只管斯界の発展を祈って切なるものです。

福井・中村九郎右エ門

日本ハンドボール創立三十周年は本県にとりましても新しい時代をひらく、福井国体が開催される輝しい年であり、歴史の一頁を飾る千載一遇希望に満ちた一大躍進の年であります。

この待望の年を迎へた私達にとっても球交の契りを得た事を誇りとし全県民一丸となり立派に成功させることは私達スポーツ人に課せられた最大の使命でもございます。球界の青年福井の誕生は実に浅く、昭和三十六年に産の声をあげてより七周年、勿論一般人にはどんな競技か、見た事もない種目、初め二つの高校でクラブ活動として七人制が実施されていた。底辺の拡大に、しかも短期間で成長させることは並大抵でなかった。高校に於てすら従来の部を縮少する雰囲気の中で新設させることは容易ではなかった。翌年国体内定と共にムードも盛上り間もなく四校のクラブが誕生した。

其の間経済的に乏しい余裕のない協会を、二、三の一般教員が余暇をさき研鑚し、今日に至らしめた業績は見逃せない。当時問題は指導者の不足であった。

指導者のないチームは成立してもすぐ消えてしまう。三十八年には専門指導者も配置され、種目ごとに二〜三校の重点校が設置され、選手強化が叫ばれるようになった。その翌年には一般男女、教員と、先輩後輩の繋がりも生まれようやく軌道に乗り瞬時にして飛躍の年を迎えるようになった。

福井球界にとってもこの数年間が苦難の連続だった。

日本協会の歩みをながめても長期の戦争敗戦と試練の歳月でもあった。其の間幾多の滅私奉公の諸兄があったことを痛感し先輩諸氏に対し深甚なる敬意と感謝の念を棒げたい。

昨年第19回全日本総合選手権を当地にて開いた。

経験に鑑み私なりの意見を申上げ協会発展の一助ともなれば幸に存じます。

○公認審判制について(審査方法)

各大会(地方大会も含む)において判定に種々に異なる見解がありＡ級においても審判の動作が緩漫で指示不明瞭な人を見受ける。Ｂ級以上は審査委員会で試験制度を実施し授与したらどうか。

Ｃ、Ｄは地方ブロックにて推薦し経験球歴等考慮し授与してはどうか。

Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ記章に色で区別してはどうか。申請方法についても毎年通達し敏速に配布の方法を検討したらどうか

○中学教育課程について

見通しは明るいと拝聴するが、普及の第一歩でもあり底辺の拡充でもあり地方発展の最大の隘路である。一層の拍車をかけて欲しい。

○全国大会へ補助を

日本協会主催する大会には多額の経費の援助を考慮する必要があるのでないか

○地方審判団の構成について

以前より聴いてはいるがブロックに於ても構成指示したらどうか、ブロックの構成等を機関誌に発表したらどうか

○講習会のあり方

毎年開催されるＡ級講習会を実のある講習会にするよう検討したら？内容が乏しい全国を三ッに分け協会自体で地方の普及発展を考え開催したらどうか

○審判の二人制について

国際会議でも内定された二人制を日本協会でも検討し実施の段階に入ってはどうだろう。

○検定ボールについて

各大会開催県で苦労しているが縫ボールは変形するものが非常に多い。再検討すると同時に業者の研究を望みたい。

○底辺拡大で視野を地方に向けられるよう普及部の一層の活躍を望みたい。

2回にわたって掲載した〝地方協会理事長特集〟および43号より連載の「日本ハンドボール界の課題」は今号をもっておわります。

フランスの技術研究（7）

ゴールキーパーはチームの要

訳　藤本　強
（日本協会常務理事）

前回までは、主としてシュートを扱ってきたが、今回はドリブルとゴールキーパーの項を取りあげて、技術編を終了し、次回からは戦術編に入ることにする。

ドリブル

これの扱いはすこぶる難しい。多く使えば、プレー全体の流れをこわしてしまうし、パスするより、フェイントをかけ、ドリブルで進んだほうが良い場合に使用した場合にはきわめて有効である。

しかし、頭の中に次の言葉はしつかりと刻みつけておいてほしい「一つのパスは一回のドリブルよりずっと早く進む」。

レベルの低いチームでは、パスとパスとの間に必ずドリブルを入れることがしばしば見られる。せっかくのチャンスもこのドリブルでつぶれてしまうことが多い。またボールを眼で追ってしまうため視野が狭くなってしまい、パスするところが見えなくなるようなことがある。ドリブルをすることによって、攻撃の芽を作ることもできず、また、チャンスを摑んだとしても、それをいたずらにつぶしてしまっている。

国際級の選手はドリブルを入れずに、すばらしい速さでボールを走りながら廻して、チャンスを作り、チャンスを生かしている。このようにドリブルは通常の攻撃の場合にはほとんど必要としない、

例外は反撃（カット、キーパーボールなどからの速攻）の場合だけである。

ドリブルで進む場合、決して眼でボールを追ってはならない。眼は常に前と左右に気を配るため上げておかなければならない。そうしないと相手の動き、味方の動きが全く判らず、盲目的に突進することになってしまう。ボールをコントロールするためには、掌を使ってはならない、かならず指でコントロールしていなければならない。

反撃の際にはなるべく早く走れるように、ボールにはなるべく少なく触れるように前に前にとボールをもっていくことが肝要となるのは云うまでもない。高さはもっとも早く走れるようにするのが望ましい。両手でドリブルできるようにしなければならない。

ドリブルは補助的にフェイントをしたあと使われる。敵をフェイントで動かした後、充分ボールをコントロールしながら、まず敵から一番遠い所で体で隠すようにしながら、ドリブルし、体全体でボールを護るようにしながら、相手をかわす。このドリブルと、前の反撃の際のドリブルは基本的には同じであるが、細い点では大いに異なっているので、どちらもすぐにできるように練習しておく。

ゴールキーパー

一般的に云えば、ゴールキーパーはチームの中でもっとも大きいしかも手足の長い、肩巾の広いものがなるべきである。というのはゴールに入り、それだけで守備範囲がグット拡がるからである。

基本姿勢

足は背巾と同じぐらいに開き、軽く曲げ、手はやや曲げて、どのような所にボールがきても、すぐ手や足が動けるように体制を整える。

味方、敵の動きに細かく注意しプレーの予測をたて、守備をしているバックを動かすように努めるようにする。

7人制では、ゴールは大きくないが、投げられるのもごく近くであるので、瞬間の判断を非常に要求される。しかも非常に速い判断を必要とされる。とっさの場合、体のどこでも出せるような体の訓練をしておかなければならない。

手、足だけでなく、ひざ、腕、つまさきなどがとっさにボールをはじくように練習しなければならない。

重心は瞬間に動作を移せるような位置に置いておかなければならない。

低い位置にくるシュートに対しては、足をすべらせ、つま先を外側に開き処理する。この時手を必

ず、足につけるようにし、足の補助とし、バウンドしてタイミングの外れたボールに対して対処するようにする。

高い位置に来たシュートに対しては、手をまっすぐに伸ばし、体重を投げられた方に移し、体全体をできるだけのばす。掌もできるだけ大きく拡げ、ボールをはじくようにする。反対側の手はバランスをとるように動かし、できるならば、シュートコースの近くにもっていく。

ポストからのシュートに対しては、できるだけ速く前に出、シュートの角度を狭める。この前に出ることは単に角度を狭めるだけでなく、シューターがシュートフォームに入ることを難しくするような効果を呼びおこすようにする。

具体的にはシューターのボールを離す位置にたちふさがるのが、もっとも効果的である。シューターの体にではなく、ボールに向って、しかもそのボールが離れる位置を予測し、そこに出ていくのがもっとも効果的である。（写真1）

サイドからのシュートの場合には、基本姿勢と同様の足をし、ゴールにピタリとつき、ゴールに近い片手は頭の上にあげ、完全に近いコーナーをつぶし、他の手は基本姿勢と同様にしている。シュートが下に来た場合には、足をすべらせ、つま先は外側に向けて、足を出し防ぐ。この際、バウンドしたボール、あるいはやや高めのボールに対処する意味で、手を補助に使うのは前と同様である。（写真2）

1.

2.

上にきた場合には、前と同様に手ではじきだすようにする。このときもちろん、手および上腕はのばせるだけ伸ばす。

試合場で

ゴールキーパーは特殊な技術をもっていなければならないと同様に他の技術特にパスにはすぐれていなければならない。

すばやくシュートされたボールを処理した次の瞬間には、キーパーは、広くグランドを見渡し、状勢を適格に掴み、反撃の緒口を見つけなければならない。そして、彼自身の眼と頭と手で判断し、味方の攻撃の最大のチャンスを掴み鋭い、正確なロングパスを送らなければならない。また反面、敵の反撃の際に、ロングパスをインターセプトするチャンスもしばしばある。このようにゴールキーパーには単にゴールコリアの中でシュートをとめるというのだけでなく多くの重要な役割りが課せられている。フイールドプレーヤー以上に、予測する力が要求されるのはこのようなことからである。また味方の選手が退場させられて、人数がへった時、あるいはマン・ツウ・マンでアタックされている時キーパーは第7のフイールド・プレーヤーとして、フイールドにでて、パスに活躍をしなければならない。このような場合、時によるとシュートを打つチャンスも出てこよう。単にパスのつなぎ役としてより以上のものを要求される場合もある。

キーパーは試合中、味方の防禦のクセ、また防禦の壁の向う側の敵の動き、及びクセを充分に知っていなければならない。

またノーマークシュートの場合とかポストからのシュートなどの場合にはフェイントをかけ、すぐに逆動作をして、シュートを防ぐことも練習しておく必要がある。

キーパーには、その特殊練習以外にフイールドプレーヤーと同様な技術・戦術の練習もさせておくのが望ましい。

キーパーのみの練習としては、ロングシュート、ポストシュート左右のサイドシュートから、それそれ、上下左右に打ち、弱点を明らかにし、それを取り除くように充分練習しておく必要がある。

体験によって、キーパーは相手のシュートがどこに来るかを予測できるようになる。相手をジックリ観察し、フェイントにかからないようになるには、体験をつむ以外にはない。

以上のように7人制ハンドボールのゴールキーパーには多くのものが要求されている。

天分もあろうが、何よりも練習である。反射運動を高める練習に時間をかけ、充分にこなすべきであろう。

球界パトロール

10年間守ったトップスター座

東　嘉伸，竹野奉昭の両選手

▽……東嘉伸（大阪イーグルス）と竹野奉昭（大崎電気）――10年間トップスターの座を守った二人の男の名前である。

昭和33年2月2日、東京体育館で行われた日本協会創立20周年記念東西対抗に東軍から参加した両選手は、それから10年後の30周年記念試合に全日本社会人選抜軍の選手として、同じフロアに立ったのである。

10年。一口にいうがなみたいていのことではない。

▽……ともに学生（日体大）時代から、折り紙つきの技倆を誇り、日本を代表しての国際試合の経験も豊富だ。

記念試合を前に、二人の感想は「もうだめですよ」であった。

しかし、いざ試合が始ってみると、まっさきに頬が紅潮し、すさまじいばかりの勝負への執念を見せたのはこの両選手だったのだ。

キャリアーの要求されるハンドボールにあっては誠に貴重な存在である。チームプレーを身上とするハンドボールにあって、30年間の史上初めて生まれたともいってよい〝スター〟である。

ヨーロッパ各国のハンドボール界では、いつの時代にもかならず国内のファンを熱狂させるスターがいる。彼らの名は自国ばかりか国際的にも通り、その選手のプレーを見たさに観衆がスタンドを埋めつくす。

○……ところで、両選手が今日まで第一線に立つことができた一つの背景として近年における実業団、教員球界の確立があげられよう。

たとえば、2月大阪で開かれた全日本実業団では、敢闘賞をうけた北山（住友化学）をはじめ沖重、加藤、木下（以上三菱レイヨン）大木、宮坂（以上日本原研）福井、富永（以上自衛隊勝田）、竹尾（富士レジン）、大柴（日進商会）ら、かつてないほど30代選手の活躍が目についた。喜ばしい傾向だ。

○……アマチュア〝引退〟はない、とはよく云われる言葉だ。

しかし、現実にはいつの間にかコートをはなれ、姿を消してしまうプレイヤーが圧倒的に多いのである。

東、竹野両選手のようにトップスターの座を10年以上も守り抜くことは至難だ。ハンドボール界において二度とこのような〝記録〟は生まれぬかも知れぬ。

しかし見習うべきは30才をこして、なお第一線に立つ気力と努力だ。これこそ二人のスターが、コートで示したいくたの美技にもまさる教訓というべきではなかろうか――（X）

明日への提言（投稿歓迎）

チーム増加のための一試案

田中滋章

本誌50号で始めて荒川理事長の施政方針のほか協会の主だった人達の意見、更に地方の各県の方々のお話を読ませて載き、大変参考になると共にすべての諸氏がハンドボールに深い愛情と情熱を持っていられる事を知り感激致しました。

しかしながら球界に望む地方の方々の意見に対しその解答となるべき様な指針が具体的に示されていないのは非常に残念に思います。例えば理事長の方針にしても6項目とミュンヘンオリンピックに分けて述べていられるが、〝こうしなければならないだろう〟とか〝こうしたいものである〟という抽象的な目標のみで何ら具体的な指導方針は表明されていない。地方の我々が果してこの文からどれだけ動く事が出来るであろうか。地方ではもっと細かい事に切実なのだ。小くとも理事長はこの分けられた6項目の一つづつを具体的に解決方法を見出し、それに従って地方の我々が充分働らける様配慮して貰いたいものです。

私自身同じように希望を述べていたのでは参考にならないと思い、過去11回の実業団リーグと3月に第4回リーグを行うクラブチームとを有する愛知県球界の現状から一般チームに対する私見を述べてみたいと思う。これに対する本部協会のご意見或いは各地方の方々のご批判・ご意見をお聞きしたいと思います。

一般チームに対する考察

各地方の方が一般クラブチームの育成を真剣に考えられていられる。確かに難かしい事だと思う。大世帯の高体連を有する愛知県ですら未だ10数チームのクラブチームしかなく、ここまで来るのにも10余年の才月が必要であった。

クラブチームの最初の発展段階は高校OBチームになると思う。高校OBチームが出来上がるためにはOBの中に誰か熱心な人がいて取りまとめが出来れば問題はないが、もしその様な熱心な人がいない場合、協会がどの様に関与できるかをまず考えてみなければならない。

その一つとして高校を卒業した選手の追跡調査をすることである。進学するにしろ就職するにしろ各校から報告を受け選手として参加出来る人数が一チーム分になった時、その中からこれと思う選手に働らきかけ最初は無理矢理にでもチームを作らせる。一年経てば又卒業生が出るので人数的にも余裕が出来てくると思われる。

一方先の進路調査を集計する事により一つの大学へ、又一つの会社へ或る程度選手が集まる事が予想される。その時には又一人を選び出し学生チーム、実業団チームを作らせる様働らきかける。こうしてクラブチームだけでなく、学連・実連もチーム数を増加させ得る事が出来るが、ここに学生或いは実業団の選手がOBチームと重なるという問題が起る。

愛知県のクラブリーグに於いては一チーム3名以内の学連・実連登録選手の参加を認めている。この制限数は兎も角、まづは実施して拡大方向に進めるのが良策であり、又長い目でみて育成しなければ到底安定した発展は望めないと思う。

しかしながら我々が終局に望むクラブチームの姿は学校のOBチームではなく、水泳に於ける山田や代々木のスイミングクラブであり、又地方を代表した地区別（市町村或いは大都市の区）のチームである。そうでなければ実業団チームと両立は出来ない。

クラブチームの全国大会を望む声も大きい。特に愛知県のように桜丘会とか中京クという強力クラブチームを持てば尚更の事である。しかしながらクラブチームの選手はそれぞれ会社に勤務する社会人である。だから選手がすべて己れの仕事を放棄して全員揃うであろうか。又実業団チームの様にスポンサーがないのですべて自己負担で参加出来るだろうか。

そこで提案する。最小の費用で休日に行なう方法として、デ杯テニスの様に長い日をかけて県・ブロック・ブロック対抗、そして最後に東日本と西日本の代表をかけて決勝を行なえば良いと思う。

クラブチームの参加規定（例えば実連登録選手の処遇など）或いは本部と各地方を結ぶ役員構成など話し合えば直ぐにでも解決できる事と思う。実現を望みたい。

以上私の愚考であるが参考になれば幸いである。（愛知実業団連盟理事長）

新連載

ハンドボールの歩み　≪世界選手権編①≫

オリンピックで実施、世界選手権常時出場などわが国の球界にとって世界のハンドボール界はぐっと身近になった。しかし海外球界の推移はこれまであまり紹介されていない。本誌では多くの角度からとらえた"国際球史"を今月号から連載することにした。御愛読を願いたい……。

ハンドボールは国内でようやく三十年の歴史を刻むに至ったが、世界的にみても、その歴史はきわめて短かく、五十年の歴史しかもっていない。しかしその発展はきわめてめざましいものがある。今日、IHFの正式加盟国が四三ヶ国を数え、当初ヨーロッパのみの競技であったのが、現在では、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、南北アメリカにも、それぞれ加盟国をもっている。競技人口も急速に増加し、現在では三百万に近い数になっている。

このような急速な発展を遂げたのは、一つには、IHF本部、各加盟国の努力があったからにほかならないが、類似の競技が民族の競技として伝えられ、長く国民に親しまれていたものが各地にあったことを忘れてはならないであろう。ハンドボールは競技として確立されたのはごく新しいが、類似のものは世界各地にそれぞれ数千年・数百年の伝統をもって、行なわれてきている。もちろん、細かい点から云えば、今日のハンドボールとは多いに異っているがハンドボールのもっとも基本と考えられる動作―投げる・走る・跳ぶという動作をし、ボールを使用することはいずれの競技にも共通している。

本稿では、当初こういったハンドボール史以前のハンドボールから始めて、時代を追っていくつもりであったが、かえって混乱を生ずる恐れもあるので、時代を追うことはやめ、重点項目をとることにした。現在以下のような項目を考えている。

一、世界選手権編
二、IHFの歴史編
三、各国のハンドボール界編
四、ヨーロッパ杯編
五、古代、中世、近世のハンドボール編

これらをそれぞれ数回にわたって、連載していこうと考えているが、資料の点でも必ずしも万全の状態とは云えないので、果して、どこまでやれるかはなはだ心もとないスタートではあるが、とにかく読者諸氏の要望に少しでもそえるようなものにしたいと思っている。

スポーツの歴史を扱った文献は末だ多くは刊行されていないし、また、その方面の研究もあまり行なわれてはいない。カール・ディエム（Carl Diem）氏の大著「スポーツの世界史」（"Weltgeschichte des Sports"）が古今東西のスポーツの歴史を系統的に扱った唯一の書物であろう。

なるべく多くの文献にあたり、完全を期そうとは思うが、限度が自ずとあると思われるので、読者諸氏の御援助を多いに期待して始めることとしよう。（藤本）

第1回女子7人制

1957年7月13日～20日（於ユーゴスラビア）

女子ハンドボールの発展は男子に比べるとずっと遅れており、最初の段階はむしろ11人制を主体にして発展していた。その発展は戦後に主に見うけている。第二次大戦以前には、国際試合といってもごく少数しかなく、国際試合をやっていた国々はオーストリア、ハンガリー、オランダ、ドイツの4国にすぎない。

最初の記念すべき女子の国際試合はIHFの前身であるIAHF（国際アマチュアハンドボール連盟）の創設に遅れること二年して、1930年9月7日に世界婦人祝賀祭の際にプラーグで行なわれている。これが最初に公式試合として登録されているもので、オーストリアとドイツの間で行なわれ、5―4でオーストリアが世界最初の国際試合の勝者となっている。女子の7人制の国際試合は更に遅れ、戦後になってようやくはじめての試合が行なわれている。1952年の10月19日にオスローで行なわれている。試合はドイツとノルウェーの間で行なわれ、ドイツが4―3で勝ち、7人制国際試合初の勝者となった。この試合は屋外のコートで行なわれており、初の7人制の室内での国際試合は翌年をまって行なわれた。

第一回選手権入場式

この試合は組み合せは全く、女子7人制初の国際試合と同じであり、ノルウェーとドイツで挙行された。時は1953年11月29日、冬を間近に控えたドイツ・キールの体育館にドイツナショナルチームはノルウェーナショナルチームを迎えた。前年の対戦で辛くも勝ったドイツはノルウェーに3―5で敗れ、初の室内国際試合の勝者にはなれなかった。

このあともさして7人制の国際試合は行なわれてはいないが、1年に二三度、ヨーロッパで行なわれていた。

1956年の第1回11人制女子世界選手権に引き続き、第1回7人制女子世界選手権はヨーロッパの9ヶ国からナショナルチームを集めて開かれた。

参加国はチェコスロバキア、ハンガリー、ユーゴースラビア、ド

イツ、デンマーク、オーストリア、ポーランド、スウェーデン、ルーマニアの9ケ国であった。

これら9ケ国はデンマーク、ルーマニア、オーストリアのAグループ、スウェーデン、チェコ、ハンガリーのBグループ、ドイツ、ユーゴー、ポーランドのCグループに別れ、予選リーグを行ない、上位二チームが準決勝リーグに進出し、下位三チームは七、八、九位決定リーグを行なうことになっていた。準決勝リーグはそれぞれ三チームずつでリーグを行ない、それぞれの一位同志で決勝戦を、二位同志で三位決定、三位同志で五位決定を行なう規定であった。

Aグループでは、デンマークがもっとも有望視され、ルーマニアがフィールドハンドボールの力を買われた。オーストリアはほとんど考えられていなかった。Bグループはもっとも激戦が予想され、どこがでるかは全く予断を許さないとされており、中ではチェコがもっとも有力視されていた。Cグループはドイツが最有力、次が地元のユーゴーというのが戦前の予想であった。Bグループからどこがでるにしても優勝への最右翼となるであろうとの予想であった。

いざ試合がはじまってみると、予想はまずまずの結果となった。

▼Aグループ。

オーストリア　3—1　ルーマニア
デンマーク　6—1　ルーマニア
デンマーク　9—4　オーストリア

①デンマーク、②オーストリア、③ルーマニア、

▼Bグループ

ハンガリー　9—2　スウェーデン
チェコ　8—4　ハンガリー
チェコ　5—4　スウェーデン

①チェコ、②ハンガリー、③スウェーデン

▼Cグループ

ユーゴー　11—3　ポーランド
ドイツ　7—4　ポーランド
ユーゴー　7—5　ドイツ

①ユーゴー、②ドイツ、③ポーランド、

予選リーグの中でもっとも激戦であったのはやはり、予想通り、Bグループで、スウェーデンはチェコに惜敗し、残念ながら予選で姿を消さざるを得なかった。

また前年の11人制ハンドボール世界選手権で優勝しているルーマニア女子ナショナルチームは僅か二点しか予選リーグでとれず後退してしまったのは大きな番狂わせということができよう。

▼7位決定リーグ

ポーランド　4（4—0、0—1）1　スウェーデン
スウェーデン　2（0—1、2—0）1　ルーマニア
ポーランド　3（1—0、2—0）0　ルーマニア

7位　ポーランド、8位　スウェーデン、9位　ルーマニア

スウェーデン、ルーマニアはこの下位決定戦でも、力が出せず、ルーマニアに至っては4試合で僅か3点しかあげられなかった。当時いかにルーマニア女子チームが7人制になれていなかったとはいえ、うなずけない。

▼準決勝リーグ

▽第2グループ

ドイツ　10（6—4、4—4）8　オーストリア
チェコ　12（5—1、7—2）3　オーストリア
チェコ　10（5—3、5—1）4　ドイツ

①チェコ2勝、②ドイツ1勝1敗、③オーストリア2敗

▽第1グループ

ハンガリー　10（5—1、5—3）4　ユーゴー
ハンガリー　5（4—2、1—4）5　デンマーク　引き分け
ユーゴー　10（4—3、6—4）7　デンマーク

①ハンガリー1勝1分、②ユーゴー1勝1敗、③デンマーク1分1敗

準決勝リーグはまず予想された通りの結果になったが、第1グループのデンマークはもう少し進出すると考えられていた。デンマークは当時室内の王者とされており、この選手権が屋外の小グランドで行なわれるため、一沫の不安はあったにせよ、優勝候補の右翼にあげられていた。このようにして強国が消え、決勝戦はすでに予選リーグBグループで対戦ずみのチェコ対ハンガリーとなった。予選ではチェコがハンガリーを8—4と楽に敗ってはいたが、決勝戦という特殊なふんいき、それに予選リーグで対戦した資料をどのように決勝戦で生かすかに興味はもたれた。

▼決勝戦

チェコ　7（3—1、4—0）1　ハンガリー

となり、チェコが栄ある第一回女子7人制ハンドボール世界選手権者になった。

チェコは完全な防禦をしき、キーパーとの連絡もきわめてよくとれ、他のチームには通用したハンガリーチームの攻撃も全くスキを見つけ出すことができなかった。

（第一回女子選手権決勝戦チェコ対ハンガリー）

ハーフタイムの後、ハンガリーがどのように攻めるかが一つの楽しみであったが、チェコには全く乱れがなく、そのまま押しきってしまった。ハンガリーは良く動くチームとして知られていたが、チェコはこの動きを完全に封じた。これが第一の勝因であろう。

▼3位決定戦

ユーゴー　9（4—4、5—2）6　ドイツ

これも前半同点の好ゲームであったが、後半地元のユーゴーはドイツをジリジリ引き離して3位を飾った。これはまたCグループ同志の対戦になり、次の五位決定戦がAグループ同志の争いとなっているのも面白い。

▼5位決定戦

デンマーク　10（3—3、7—3）6　オーストリー

最終順位　一位チェコ、二位ハンガリー、三位ユーゴー、四位ドイツ、五位デンマーク、六位オーストリア、七位ポーランド、八位スウェーデン九位ルーマニア、

優勝メンバー
ジャネスコバ
リソバ
クセルノバ
バルタコバ
コトリノバ
シュミトバ
カメルマエロバ
コスプルドバ
ホデソバ
チハコバ
ドボラコバ
マレロバ
マルジノバ
クバスニコバ

学園だより

定時制生活のクラブ活動

県立商工定時制（神奈川）

我ハンドボール部は現在10人足らずの部員である。にもかかわらず、毎日練習に出てくる者は、平均6～7人である。昼間働き、夜は勉強するという重荷があるためか、又、肉体的に休める時も必要であるためか……それは本人に聞いて見なければ分からない事である。が全日制の皆さんに比べて、物事が簡単に運ばないのが現状である。しかしこういう生活の中で、今年は先輩たちに負けずに〃頑張ろう〃と言い合ったのは昨年の事、もうすでに一年の月日が過ぎようとしているが、この一年間に我々は一体何を修得したのだろうと疑問に思う時さえある。本当に馬鹿げた話である。今年の試合経過、又試合内容をみると、力は五分五分でありながら常に敗退の結果に致った。しかし望みを失ったわけではない。〃力〃は昼間の生徒と五分五分である。この〃力〃をいかにして勝つ方向に持っていくかと言うことが頭の痛い所である。何事にも〃勝〃ということは非常に困難な険しい路であるかは誰もが知っていることだろう。

我々は、今この険しい路の途中まできているのである。我がハンドボール部にては、今日入部して、明日の試合に出ると言った即席プレヤーもいる。又ポイントゲッターがいないため借敗した事もあった。こう言ったことが、しばしば起こる。部員が大勢いれば何でもないことである。こう言う中で我々は、ただ試合に勝つことだけでなく、スポーツマンとしての充分に得る所のある〃何か〃を求めなければならない。又そうであることを私は望んでいる。

〃勝つ〃これだけが、スポーツの目的ではないはずである。こういった目に見えないとでも言おうか、スポーツマンシップと言う人間の〃心〃を充分に吸い取ってもらいたいと、私は我がハンドボール部に望むのである。我々だけではなくスポーツを愛好するすべての人に願うのである。又我部は、今年は振るわなかったが、来年は、今年の分も一緒に含めて〃大爆発を〃をするだろう。それは無限であるかも知れない。私はその〃大爆発〃を期待し楽しい夢を見ることだろう。又、他校の皆さん来年は「商工定時」が大いに奮起する年でもあります。呉々も御注意の程を！（柴田美木男）

ぜひともインターハイに

一宮高（愛知）

私たちのクラブは、部員10人のこじんまりしたクラブです。二・三年前まで、常時県下ベスト4にはいり、活躍していましたが、最近は腕がふるいません。でも以前と変らず、自慢できるものがあります。少人数のおかげで、部員がとても親密なことです。

高校生活には、クラブ活動を疑問に思うことが、しばしばあります。将来のために、クラブの時間をもっと有効に使いたい、とか、高校のクラブ活動は、たいへんにきびしいことなど、やめてしまいたいと思うこともたびたびありました。でも二年になり、指導する立場に立つと、責任感を持ち、同時にクラブの意義、必要性まで感じ、楽しくなります。でも一年は、今ただクラブがつらいという時期です。そんな時、一年は進んで相談してくれます。自分たちの意見も卒直に言ってくれます。

私は、なんでも先輩に話せる、そんな雰囲気のクラブを誇りに思います。そして、そこから生まれる、よいチームワークと、これからの練習で、インターハイ出場を、是非とも、成し遂げたいと思っています。（長谷川鏡子）

一宮高

「私達の目標」

住吉学園（大阪）

「三年連続インターハイ出場」。この言葉は、監督の先生や、私達全部員の心の中に、秘めている大きな目標であります。

本校ハンドボール部が設立したのは、昭和34年。当時、コートもとれない程小さなグランドで、先輩たちは、努力に努力を重ね、厳しい練習に耐えてこられたのです。その努力が実り昭和41年設立以来始めて、「インターハイ出場」という大きな華が、我が住吉学園のグランドに開き、ついで翌年、二年連続出場をなしとげたのです。先輩たちの、努力と根性で作り上げたこの大きな華を、これから私たちが、水をあたえ育てなければならないのです。そしてこの水に値いするものは、毎日の激しい練習で汗を流すことであり、光に値いするものは、先生が御指導してくださる技術を、自分たちの物にすることなのです。現在、グランドも広くなり、コートも十分とれるようになりました。これから私達は目標に向かって、住吉学園ハンドボール部を発展させるために、努力して行きたいと思います。（細川節子）

ハンドボール部の歩み

鰺ケ沢高（青森）

鰺ヶ沢高ハンドボール部が誕生してから、早くも今年で5年目である。初めは学校の裏の僅かのグラウンドを使い、手製の荒けづりの柱と鉄のポールのゴールポストで、激しい練習に耐えてきたようです。僕達が新入部員としてきた時には、すでに校庭の中央にゴールポストを据え、先輩が練習に励んでいました。

前方には津軽富士といわれる岩

木山を臨み、後には日本海の荒波を見て、環境のよいグラウンドですがすがしい気持で練習ができ、よき先生、よき先輩の指導で、今日の部が育ってきたのである。

今年の部員は、小柄ながら敏速な動きと、チームワークのよさでカバーし、宿敵青森高校を破ってインターハイ県予選で初優勝をした。これに至るまでには、先輩の毎日毎日の汗と泥にまみれて激しい練習をくり返し、積み重ねた努力の賜物と思います。

広島大会への出場を目標に、これからも努力を重ね、先輩にまけない歴史と伝統を作り、全国の列強と互角に戦えるまでにしたいと考えています。（主将・成田利治）

鰺ケ沢高

私の誇り

六郷高（秋田）

六郷高

本校のハンドボール部は、昭和三十四年に創設され、以来インターハイ出場二回、県南大会では六連勝を記録する等輝かしい球史を誇っている。今の私達の目標は国体出場である。

中学校でのハンドボール経験者は一人も居ないが、高校入学後ハンドボールを始めた私達は、全員必らず、素直で明るい性格の人間になる。どんな事でも「素直に努力」をモットーに、厳しい練習を続けた今では、先生に注意を受けると返事をし、感謝の気持をこめて礼をする。練習の時は、こわい程厳しいが練習が終ると、これが同一人かと思われる程優しい兄の様に気軽に何んでも話せる先生。もう少しで後ずさりをしてしまいそうな時に暖かい助言の手をさしのべてくれた良き先輩、この様なクラブから切り離した私達の生活は考えられない。そして入部を勧めてくれた人々に感謝し、入部した事を幸せに思い、本校の代表的部の一員であることにプライドを抱き、益々充実したものに発展させるため努力に努力を重ねている。（主将・須田逸子）

身近かな相手の出現を

浜松南高（静岡）

わが浜松南高校ハンドボール部は、四十年の春発足しました。現在女子は二十五名の大世帯です。クラブは上級生、下級生の結びつきがたいへん強く、練習中は皆、愛称で呼びあって、お互いの親密感を増しています。

先輩を愛称で呼ぶなんて、最初は抵抗を感じもしましたが、今では、正式な名前を呼んでり、呼ばれたりすることに抵抗を感じるようにさえなりました。

浜松市内でハンドボール部があるのは男女とも、私たちの学校ただ一つという寂しさです。このため、練習試合をするにもバスで一時間くらいのところまで出かけて行かなければなりません。ですから、私たちは市内で一つでも多くハンドボール部を結成してくださることを願っています。

寒さも日増しに厳しくなつてきた今日このごろ、毎日グランドでの練習を続けています。指先が割れて痛くなったりします。でも、私たちは、先輩の築いてくださった土台を強固にし、高く積み上げていこうと皆でがんばっています。（主将・野中あい子）

浜松南高

2年生チームでの県大会優勝

香椎高（福岡）

2年生だけのチームで我が香椎高校ハンドボール部は、国体予選福岡県大会で堂々優勝した。我が校の県大会優勝は先輩達が残した記録にも多くのっている、その優勝が2年生のチームによって成された、もちろん県大会優勝は生やさしくはない、そのためか優勝した時の部員の感激はひとしおであった。未熟な技術と浅い試合経験、その現れとしてか九州大会では一回戦で敗れた。そのチームを優勝へ導いたものは、のびのびとプレーできた事と、そのプレーを支えたチームワークにあったろう、だが陰のつらい練習も見逃せない。そしてこの勝利におぼえることなく努力しなければならないことは言うまでもない、とにかく新チームにとって大きな意義を持った勝利であった。そして良き指導者である中西先生、多くのOB、又近くの大学チームとの練習も良い条件として忘れてはならない。

これからの試合、又、インターハイ、国体出場という大きな目標を目ざして、部員一同、はりきって汗を流しています。

（主将・桜木正雄）

今年の目標　女子

桜水商（東京）

本年も全国大会出場が、第一目標である。

先輩の築いた伝統を選手自身が自覚し、「今年も！」と張切っているので、小生も未熟ながら目標達成のために選手と一丸となって努力していこうと思っている。

それには現在の選手の体力では多少の不安を感じたので、連日、体力作りに励んだ。現在新人戦の失敗からチームプレーについて小生も選手も再考し、心気一転、自信を持ってシーズンを持っている。（顧問坂理泰幸）

各地の記録（寄稿歓迎）

商友会・高校勢おさえる

女子は全秋田和洋勝つ

第4回東北総合室内選手権は1月27、28日の両日岩手県営体育館に男女8チームが参加して行なわれた。

男子は、高校現役勢の進境が目立ち、ベスト・4のうち三つを占めたが、キャリアに優る盛岡商友会（岩手）が、決勝で粘る湯沢高（秋田）をふり切って初優勝した。

女子は、三菱鉛筆の転籍（山形→神奈川）から混戦が予想されたが、全秋田和洋が42年インターハイ優勝のメンバーを中心にしてソツのない試合運びを見せ、準決勝で今夏のインターハイ優勝校花巻南高（岩手）を接戦の末降し、決勝では後輩の現役チームに大差をつけて初優勝した。

▼男子1回戦

聖光学院工高（福島） 15（6－6、6－6……2－0、1－2）14 下北手ク（秋田）

盛岡商友会（岩手） 17（5－6、12－6）12 古川工OB（宮城）

盛岡商高（岩手） 不戦勝 福島教員ク（福島）

湯沢高（秋田） 24（9－5、15－5）10 古川工OB（宮城）

▽同準決勝

盛岡商友会 16（6－5、10－6）11 聖光学院工高

湯沢高 16（9－5、7－4）9 盛岡商高

▽同決勝

盛岡商友会 13（8－7、5－5）12 湯沢高

▼女子1回戦

花巻南高（岩手） 7（5－1、2－0）1 梁川高（福島）

全和洋（秋田） 17（7－0、10－0）0 涌谷高（宮城）

花巻農高（岩手） 11（2－6、9－3）9 竹田女高（山形）

秋田和洋女高（秋田） 8（4－2、1－3……0－1、3－0）6 小高農高（福島）

▽同準決勝

全和洋 9（3－1、6－4）5 花巻南高

秋田和洋女高 7（4－2、4－3）5 花巻農高

▽同決勝

全和洋 19（11－3、8－1）4 秋田和洋高

田村紡、愛知紡に雪辱

男子は中京ク2連ぱ

第7回東海室内選手権は2月18日豊橋市体育館に東海4県の予選勝者男女4チームが参加して開かれた。

▽男子1回戦（＝準決勝）

中京ク（愛知） 27（14－7、13－7）14 三菱油化（三重）

常盤工業（岐阜） 17（9－3、8－7）10 静岡教員団（静岡）

▽同決勝

中京ク 19（12－7、7－9）16 常盤工業

▽女子1回戦（＝準決勝）

田村紡（三重） 29（12－0、17－1）1 巣友会（岐阜）

愛知紡（愛知） 31（13－1、18－2）3 吉原高ク（静岡）

▽同決勝

田村紡 8（4－3、4－3）6 愛知紡

男子は函館勢上位独占

高校女子で紋別北勝つ

第6回北海道室内選手権は昨年12月23、24の両日函館中部高体育館などで4部門に分かれて開かれた。

一般では、男子は函館勢がベスト・フォアを独占した結果、決勝では青雲クと函館東OBが延長にもつれこむ熱戦の末、引き分けて優勝は預りとなった。女子は函館遺愛OGが江差OGを降した。

高校では、男子は函館工が準々決勝で有力チームの紋別南を破った勢いをかって優勝、女子は紋別北の攻撃力が他をおさえた。

▽一般男子準決勝

函館東 31－30 函工ク

函館青雲ク 13－11 函館中部OB

▽同決勝

函館青雲ク 21（9－8、10－11……1－1、1－1）21 函館東高OB 引き分け

▽一般女子決勝

函館遺愛OG 7（4－1、3－3）4 江差OG

▽高校男子準々決勝

函館東 21－9 函館大谷

函館中部 8－6 紋別北

函館商 11－6 北見工

函館工 11－9 紋別南

▽同準決勝

函館中部 5－4 函館東

函館工 9－2 函館商

▽同決勝

函館工 13（4－3、9－5）8 函館中部

▽高校女子1回戦（1試合）

紋別北 14－5 函館女

▽同準決勝

紋別北 13－5 函館遺愛

江差 7－5 函館東

▽同決勝

紋別北 7（4－1、3－3）4 江差

静岡で県選抜大会開く

▼男子1回戦（＝準決勝）

清商ク 28－6 日野自動車

静岡教員団 15－14 清水橘ク

▽同決勝

静岡教員団 15－12 清商ク

▼女子1回戦（準決勝）

清水女高 10－5 静岡城西ク

吉原高 15－3 清商ク

▽同決勝

吉原高 9－8 清水女高

岡野愛球会、が連勝

▼第14回福岡県室内選手権（12月・小倉体育館）

▽一般男子準々決勝

田川工OB 13－12 宗像ク

岡野愛球会 24－14 西南学院大

博送ク 33－18 九州大

西南ク 25－22 香椎ク

▽同準決勝

岡野愛球会 21－13 田川工OB

西南ク 棄権 博送ク

▽同決勝

岡野愛球会 20（10－9、10－6）15 西南ク

▼高校男子準々決勝

明善 8－7 若松

田川工 13－5 八幡工

小倉工 21－11 西南

香椎 20－6 久留米工

▽同準決勝

明善 12－6 田川工

香椎 11－8 小倉工

▽同決勝

香椎 12（7－1、5－10）11 明善

▼同女子1回戦（2試合）

信愛 12－4 筑紫中央

明善 17－6 室見ケ丘

▽同準決勝

福岡女 11－5 信愛

明善 10－3 古賀

▽同決勝

明善 19（9－3、10－2）5 福岡女

北農高A、小諸商勝つ

▼第7回長野県総合室内選手権（1月・佐久高ほか）

▽男子準々決勝

上田ク 11—7 北農高B
長野教員 25—14 本州大
北農高A 11—9 坂城ク
北農ク 16—13 上田高

▽同準決勝

上田ク 19—10 長野教員
北農高A 19—17 北農ク

▽同決勝

北農高A 19（9—10、8—7、……、0—1、2—0）18 上田ク

▽女子1回戦（3試合）

小諸商 31—1 佐久高B
上田城南高 13—6 北農高
小諸商ク 18—6 佐久高A

▽同準決勝

小諸商 18—3 上田城南高
小諸商ク 20—6 篠の井高

▽同決勝

小諸商 18（11—3、7—2）5 小諸商ク

三菱油化、本田技研を破る

▼第18回三重県総合選手権（1月津）

▽男子準々決勝

愛球会 10—8 鵜の森ク
高田高ク 19—6 四日市高
三菱油化 16—10 本田技研
大協石油 9—7 四日市工A

▽同準決勝

愛球会 20—7 高田高ク
三菱油化 29—9 大協石油

▽同決勝

三菱油化 19（8—8、9—9、……、0—1、2—1、……、0—0、0—0）19 愛球会

優勝は預りとなり、東海室内出場権は抽せんの結果、三菱油化に決まった。

▽女子準々決勝

田村紡A 18—0 津女子高
田村紡B 47—0 津高
四日市高B 17—5 白山高
松阪女ク 20—14 四日市高A

▽同準決勝

田村紡A 24—4 四日市高B
田村紡B 24—2 松阪女ク

▽同決勝

田村紡A 16（11—5、9—3）8 田村紡B

大竜会など優勝

▼大分県室内選手権（1月・大分）

▽一般男子Aクラスリーグ

大竜会 17—14 鶴工OB B
大東ク 31—13 鶴工OB A
鶴工OB B 25—14 鶴工OB A
大竜会 16—9 大東ク
大東ク 19—17 鶴工OB B
大竜会 24—10 鶴工OB A

【順位】①大竜会②大東ク③鶴崎工OB（B）④同（A）

▽同Bクラス決勝

玖珠農高教職員 23—21 愛球会

▽一般女子決勝

大分東OG 棄権 大分商OG

▽高校男子決勝リーグ

鶴崎工 13—3 大分商
大分東 24—7 国東
大分商 28—2 国東
大分東 19—7 大分商
鶴崎工 15—13 大分東
鶴崎工 16—6 国東

【順位】①鶴崎工②大分東③大分商④国東

▽同女子決勝リーグ

大分東 9—7 玖珠農
青山 10—9 玖珠農
大分東 9—7 青山

【須位】①大分東②青山③玖珠農

高松一高OB強し

▼香川県総合選手権（1月・高松）

▽男子準々決勝

三本松OB 11—10 香川教員
高松一OB 26—9 三本松高
香川高 7—4 坂出工OB
香川高OB 10—10 坂出工（抽せん勝ち）

▽同準決勝

高松一OB 27—7 香川高
三本松OB 18—11 香川高OB

▽同決勝

高松一高OB 23（12—8、11—8）16 三本松OB

▽女子1回戦（1試合）

香川高 11—10 高松女商

▽同準決勝

観音寺商 3—2 三本松OG
三本松高 3—2 香川高

▽同決勝

観音寺商 6（3—1、3—4）5 三本松高

富士鉄、愛知紡、中京ク勝つ

愛知3大会の成績

▼第11回愛知実業団リーグ（1月・名古屋金山体育館）＝男子のみ

▽一部

富士製鉄A 31—9 日本碍子
大同製鋼 24—22 富士製鉄B
富士製鉄A 27—12 光文堂
富士製鉄B 18—14 タヨシ産業
大同製鋼 20（分）20 光文堂
富士製鉄A 32—16 大同製鋼
光文堂 20—16 富士製鉄B
富士製鉄A 21—11 富士製鉄B
タヨシ産業 22—18 日本碍子
大同製鋼 19（分）19 日本碍子
タヨシ産業 19（分）19 光文堂
日本碍子 18—13 光文堂
大同製鋼 17—12 タヨシ産業
日本碍子 19—17 富士製鉄B
富士製鉄A 36—4 タヨシ産業

【順位】①富士製鉄A5戦全勝＝4シーズン連続、通算5回目の優勝②大同製鋼2勝1敗2分③日本碍子2勝2敗1分④光文堂1勝2敗2分⑤タヨシ産業1勝3敗1分⑥富士製鉄B1勝4敗

【2部順位】①トヨタ車体4戦全勝＝新加盟初優勝①三菱重工3勝1敗③中部電力2勝2敗④昭和梁工1勝3敗⑤ブラザー工業4敗

※

▼第6回愛知県女子社会人・学生リーグ（1月・名古屋金山体育館）

愛知紡 26—1 中京女大A
愛知紡 36—4 中京女大B
愛知紡 33—6 ブラザー工業
中京女大A 7—4 ブラザー工業
中京女大A 9—4 中京女大B

ブラザー工業 13—7 中京女大B

【順位】①愛知紡3戦全勝＝6連勝②中京女大A2勝1敗③ブラザー工業1勝2敗④中京女大B3敗

▼昭和42年度愛知県室内選手権（1月・名古屋金山体育館）＝男子のみ

▽準決勝

中京ク 35（19—6, 16—9）15 愛工ク

東杏会 20（15—5, 5—6）11 豊橋ク

▽決勝

中京ク 32（20—6, 12—9）15 東杏会

高校現役勢頑張る

▼第11回宮城県総合室内選手権（1月・東北大）

▽男子準々決勝

塩釜高 21—3 電子高

古川工 21—9 仙台商OB

古川工OB 22—6 宮城教員団

古川高 12—9 祇園寺高

▽同準決勝

古川工 18（11—3, 7—5）8 塩釜高

古川工OB 20（12—6, 8—5）11 古川高

▽同決勝

古川工 24（15—9, 9—10）19 古川工OB

▽女子準々決勝

涌谷高 6—3 古川女高

涌谷OG 15—4 宮二女高

古川商 13—2 祇園寺高

宮三女高 不戦勝

▽同準決勝

涌谷高 10（6—5, 4—1）6 宮三女高

涌谷OG 21（12—2, 9—1）3 古川商

▽同決勝

涌谷OG 16（6—5, 10—1）6 美谷高

学生選抜・一般を降す

▼第3回宮城県民ハンドボール祭（1月・宮城県スポーツセンター）

高校顧問団 17—16 宮城協会役員

高校新入選抜 12—10 仙台自衛隊

宮城高校選抜(男) 30—20 宮城教員団

宮城高校選抜(女) 24（11—7, 13—6）13 一般女子選抜

学生選抜 20（10—5, 10—8）13 一般選抜

◇　◇

三学連の新役員決まる

関東、関西、東海各学連は次のようにほど43年度役員を決めた。また、中四国学連は事務局を山口大に移した。スタッフは近く発表される。

▼関東学連▽理事長　田中秀夫（中大監督）▽委員長　須賀通夫（日体大）▽副委員長　中沢昭彦（国士館大）岩月清市（法政）▽会計　三宅和明（明星大）原絹代（日体大）

▼関西学連▽委員長　松本秀夫（甲南大）▽副委員長　橋爪清（京大）山本勉（立命館大）松永正浩（大阪外語大）▽会計　充田好彦（同志社大）

▼東海学連　▽理事長　藤松博（中京大部長）▽委員長　後藤良（名古屋大）▽副委員長　的場吉憲（中京大）▽会計　三輪洋（南山大）

関東学連、4部制に

関東学連では、新年度から都立大、独協大、明治学院大、東京農工大（以上東京）東海大、横浜商科大（以上神奈川）千葉商大（千葉）山梨大（山梨）の8校が加盟すると発表した。この8校によって4部を新設する。

関西には追手門、近大加盟

関西学連では新年度から新たに追手門学院大、近畿大の二校が加盟すると発表した。

追手門学院大は初加盟だが、近畿大は、24年秋にいちど加盟（2部）しており37シーズンぶりの復帰ともいえる。

東海も増加、3部制に

東海学連では新年度から名古屋学院大の新加盟と、名古屋市立大の35年春以来16シーズンぶりの復帰を発表した。三部制を実施。

〝県変更〟認めず

今秋の国体参加資格決まる

体協国体委員会は2月29日の総会で、今秋、福井県で開かれる（ハンドボールは高浜町）第23回国体の選手参加資格を最終的に次のように決めた。

一、一般は現住所または勤務地のいずれか一ケ所。本籍地からの出場は認めない。

一、学生（ハンドボールの場合は女子学生のみ）は現住所または卒業した高校所在地の都道府県大学の所在地のいずれか一ケ所。

一、前年度（埼玉国体、含予選）である県から出場した選手は、今年はその県以外から出場することは認められない。ただし、今春三月の新卒者はこの規制から除き、就職先の都道府県からも出場できる。

日本ハンドボール史追加と訂正

本誌50号14〜17頁「日本ハンドボール界の足跡」のうち、次の各項を追加または訂正いたします。

▽昭和15年の項「第2代会長に永井松三氏（4月）」は昭和17年の誤りにつき訂正

▽昭和38年の項に「すべての国内公式試合（男女）を七人制に一本化。26年にわたる11人制の歴史を閉じる（4月）」「韓国学生選抜軍が来日、日本側4勝3敗1分（6月）」の2項目を追加。

編集後記

今年度もいよいよ大づめにきた。思えば多端な年であった。新年度も国の内外に問題が山積しており、忙しい年になることはまちがいがない。今号は実業団の記録、理事会の重要決定事項、三十周年記念行事が中心の編集になった。

南ア連邦のオリンピック参加をめぐって、広範囲なオリンピックボイコット運動がおきている。ハンドボール界では直面してはいないが、グルーノーブルであったような商業主義の関係、東京オリンピックの際におこった国名呼称問題、更には南ア連邦のオリンピック参加の問題等の政治の問題、これらはオリンピックが大きな転機にたたされていることを表わしていよう。現代のようにオリンピックが国威発揚の場と変ってきてる以上、これらの問題をさけてとおることは許されない状況になっていよう。ハンドボール界にあっても、対岸の火事とばかりはいっていられない問題である。そのような事態がおこった時に慌てないような心構えを常日頃もっている必要があろう。各自がそれに対処しうる状勢判断と心構えをこしらえなければならない。社会の中のスポーツなのだから（TSF）

チヨダは印刷機材の合理化を推進する総合メーカーです。

営業二課／栗田満夫

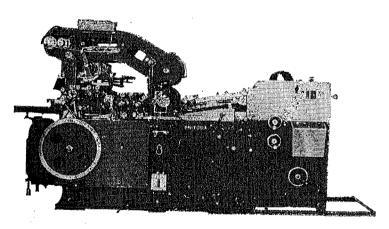
パーフェクトは夢の印刷機（全自動）です。
超薄紙から厚紙まで、忙しい人手の足りない工場に大好評。

営業一課／庄司政雄

パーフェクトはたくさんの賞賛の言葉をいただきました。よい製品をつくる励みになります。

営業二課／打林行夫

本社新社屋

新製品 パーフェクト 全自動Ｂ四截凸版印刷機

千代田印刷機製造株式会社
千代田印刷材料製造株式会社

本　　社　東京都千代田区神田猿楽町１－４　ＴＥＬ　東京（292）2011（代）～８
横浜支社　横浜市西区高島通り１－７　ＴＥＬ神奈川（045）44－6572・7358・7028
福岡支社　福岡市御供所町３番16号（聖福寺前）　ＴＥＬ　福岡（28）3960・0153
立川工場　東京都昭島市東町１丁目１番地５号　ＴＥＬ　立川（0425）２－2470・4383
九州工場　佐賀県小城郡牛津町（牛津駅前）　ＴＥＬ　牛津　72

横浜支社

日本ハンドボール協会編
ハンドボール
第五十一号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十三年二月二十五日印刷 昭和四十三年三月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都[illegible]区神南町二五
電話 大代表(467)三一一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人 鈴木達雄
定価 百五十円